

2025 年度
FD・SD 報告書

川崎医療福祉大学 FD・SD 委員会

2025 年度 FD・SD 報告書

目 次

1. FD・SD 活動報告書	1
2. FD・SD 委員会活動	3
3. 春学期 学部授業評価アンケート報告書	7
4. 秋学期 学部授業評価アンケート報告書	14
5. 大学院生アンケート報告書	21
6. 卒業生（4 年次生）アンケート報告書	27
7. 既卒生（2024 年度卒業生）アンケート報告書	33
8. 就職先（2024 年度卒業生）アンケート報告書	39
9. 学修成果及び学修行動、環境に関する調査報告書	47

FD・SD 活動報告書

川崎医療福祉大学

FD・SD 委員会

本学では、FD・SD 活動を「本学の教育および管理運営に対する教職員の能力向上を組織的に進める」取り組みと位置づけ、講演会・研修会および学生による授業評価を中心に調査・研究すること、また FD・SD に関する情報を収集し、提供することとしている。

2025 年度 FD・SD 活動の概要

教育研究に関する研修会、教職員の資質向上に関する研修会、授業研究カンファレンス等の研修会を例年通り実施した。また、各種アンケートも改良を加えつつ実施した。

FD 研修会（教育研究に関する研修会）

2025 年度は、2025 年 8 月 20 日（水）に FD 研修会（教育研究に関する研修会）を実施した。

「高等学校教育と大学教育の連携強化に向けて」、「早期入学決定者を支える学びの基盤形成—川崎医療福祉大学の取組み」を取り上げた。高等学校と大学が連携し、早期入学決定者の学習意欲や基礎学力を維持するとともに、入学前学習を通じて学修習慣を定着させ、大学での学びへ円滑につながる支援の在り方について理解を深めた。参加率は 76%であった。

大学院 FD 研修会（教育研究に関する研修会）

2022 年度から、大学院固有の FD 事業として、第一線で活躍できる研究者養成を目指し、教職員間での教育ノウハウの共有を行いつつ、大学院生の確保および教育能力のレベルアップを目的として、大学院指導教員・指導教員補佐を対象に、年に 1 回程度を目安に開始された。2025 年度は、2025 年 8 月 8 日（金）に「本学大学院の活性化に向けて」を取り上げた。高度専門職業人の養成を中心とした本学大学院の将来像を共有するとともに、教育課程やキャリア支援の充実、産学官連携による社会人の受入れなど、大学院の活性化に向けた課題と方策について理解を深めた。参加率は 77%であった。

SD 研修会

SD 研修会として、「教職員の資質向上に関する研修会」（年 2 回）、「事務職員の資質向上に関する研修会」（年 2 回）、「コンプライアンス等研修会」（年 3 回）、「研究者等の倫理的配慮に関する研修会」（年 1 回）、「ハラスメント防止に向けての研修会」（年 1 回）が行われ、多くの教職員が参加した。

FD 研修会（授業研究カンファレンス）

本学では、授業方法や評価法の検討を通じて教育の質を高めることを目的とし、FD・SD 研修会や授業評価アンケートなどの取り組みを行っている。また、教育方法について学内で共有するため、授業研究カンファレンスを開催している。2025 年度の授業研究カンファレンスでは、保健看護学科 准教授 上野 瑞子より「電子テキスト導入 1 年目の現状と課題」、医療データサイエンス学科 特任教授 片岡 浩巳より「セキュリティを担保したローカル生成 AI によるレポート自動採点システムの構築」が発表された。教職員のうち 357 名が参加した。

学部授業評価・卒業生（4 年次生）・大学院生対象のアンケート

学部授業評価アンケートについては、WebClass を通じて、履修者が 5 名以上の全科目においてアンケートを実施した。最も中心的な項目である授業の満足度については、平均値が春学期は 4.53、秋学期は 4.53 を示し、昨年同様、高水準を保っていることが確認された。

卒業生（4 年次生）については、今年度も教育全体の満足度に加え、ディプロマ・ポリシーの達成度を問うかたちで実施した。教育全体の満足度の平均値が 4.09 で昨年よりも上昇したが（昨年度：4.05）、4 年前までの水準（安定して 4.1 以上）を下回る結果となった。

大学院生については、博士後期課程の教育全体に対する大学院生の満足度は高い値（4.62）を示したが、修士課程については昨年に引き続き、3 年前までの 4 年連続 4.4 以上の状態と比べて低い水準のまま（4.00）であった。

既卒生・就職先対象のアンケート

既卒生（2024 年度卒業生）の本学教育の満足度、ディプロマ・ポリシー達成度については、昨年度と同等に概ね高評価であった。就職先の総合的な評価は、おおむね満足との回答を得られた。両アンケートとも、引き続き回収率が低いため、改善を図りたい。

学修成果及び学修行動、環境に関する調査

本学の学生の学修前後の学修成果を把握し、本学の 3 つのポリシーを検証する材料とすることを目的として、「学修成果および学修行動、環境に関する調査」を実施している。学生は与えられた学びに対して真剣に取り組んでいるものの、学修への主体的な姿勢が必ずしも十分ではない点が見られた。また、空調や自習スペースなど、快適で自主的な学びを促進する環境や施設の拡充も重要な課題になっている。

2025 年度 活動実績
FD 研修会（教育研究に関する研修会）の開催 2025 年 8 月 20 日（水）（後日 Web 配信） 「高等学校教育と大学教育の連携強化に向けて」 岡山県立総社高等学校 教頭：戸田 英雄先生 「早期入学決定者を支える学びの基盤形成－川崎医療福祉大学の取組み」 総合教育センター 教授：福島 康弘先生 （参加者数：392 名）
SD 研修会（教職員の資質向上に関する研修会）の開催 【第 1 回】 2025 年 8 月 7 日（木）（後日 Web 配信） 「第 4 期期間別認証評価について」 総務担当副学長：宮川 健先生 「奨学金新制度について（多子世帯支援等）」 学生課 （参加者数：383 名） 【第 2 回】 2026 年 2 月 19 日（木）（Web 受講） 「近年の入試傾向、進研 9 月模試から見た今後の市場動向と検討課題について」 進研アド：横山 宏治様、岸本 直也様 （参加者数：279 名）
SD 研修会（事務職員の資質向上に関する研修会）の開催 【第 1 回】 2025 年 7 月 24 日（木）（後日 Web 配信） 「『より良い組織』を目指して ～就職課 before→after～」 就職課 （参加者数：144 名） 【第 2 回】 2025 年 11 月 1 日（土）（Web 受講） 「学内のアカハラ・パワハラを防止する方法」 （参加者数：124 名）
SD 研修会（コンプライアンス等研修会）の開催 【第 1 回】 2025 年 4 月 12 日（土）～2025 年 6 月 30 日（月）（Web 受講） 「大学の取り組み・不正防止計画に関すること」 研究担当副学長：守屋 文夫先生 （参加者数：404 名）

【第2回】

2025年7月4日(金)(後日 Web 配信)

「安全保障輸出管理に関すること」

九州大学 法務統括室：佐藤 弘基先生

(参加者数：405 名)

【第3回】

2025年9月2日(火)(後日 Web 配信)

「知的財産に関すること」

一般社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会

事務局長：中川 文憲様

(参加者数：394 名)

SD 研修会（研究者等の倫理的配慮に関する研修会）の開催

2025年4月24日(水)(後日 Web 配信)

「研究者等の倫理的配慮に関する研修会」

倫理委員会委員長：守屋 文夫先生

(参加者数：334 名)

SD 研修会（ハラスメント防止に向けての研修会）の開催

2025年9月5日(金)(後日 Web 配信)

「本学におけるハラスメントのない土壌を考える～教員・職員・学生の立場から～」

ハラスメント相談員：谷原 弘之先生

(参加者数：310 名)

大学院 FD 研修会（教育研究に関する研修会）の開催

2025年8月8日(金)(後日 Web 配信)

「本学大学院の活性化に向けて」

大学院・研究担当副学長：守屋 文夫先生

(参加者数：156 名)

FD 研修会（授業研究カンファレンス）の開催

2026年2月25日(水)(後日 Web 配信)

「電子テキスト導入1年目の現状と課題」

保健看護学科 准教授：上野 瑞子先生

「セキュリティを担保したローカル生成 AI によるレポート自動採点システムの構築」

医療データサイエンス学科 特任教授：片岡 浩巳先生

学部学生による授業評価アンケートの実施

【対象者】学部生

【対象科目】春学期及び秋学期の履修者 5 名以上の全科目

【実施時期】春学期：2025 年 7 月 14 日（月）～2025 年 7 月 31 日（金）

秋学期：2026 年 1 月 15 日（木）～2026 年 2 月 28 日（土）

【報告時期】春学期：2025 年 11 月、秋学期：2026 年 6 月

・集計・分析を実施し、報告書を大学ホームページ、ポータルサイトへ掲載

◎授業評価における対応方針について

【授業満足度の高い主担当教員への対応】

・授業評価結果（高評価）に関するレポートの提出及び公開授業の依頼

・満足度の値が年間を通じ、講義部門と演習・実習・実技・実験部門にて最も高い科目から順に主担当教員各 3 名を表彰する。

【授業満足度の低い主担当教員への対応】

・本人記載の上、学科長もしくは総合教育センター長の対応が記載された授業評価結果（要改善）に関するレポートの提出依頼

授業に関する意見・要望フォームの実施

【対象者】学部生・大学院生全員

【実施方法】WebClass 上に入力フォームを設ける

【回収時期】月に 1 度月末付で回収する

【対応】

・FD・SD 委員会で、報告事項として諮る。

・記名がある場合、科目担当教員へ報告・フィードバックを作成してもらい、学生へ回答を返す。

・記名がない場合も、委員長に報告の上、場合によっては科目担当教員や上長等へ報告する。

学修成果及び学修行動、環境に関する調査

【対象者】学部生全員

【実施時期】2025 年 7 月 14 日（月）～2025 年 7 月 31 日（木）

【報告時期】2025 年 9 月

・報告書を大学ホームページ、ポータルサイトへ掲載

大学院生アンケートの実施

【対象者】在学する大学院生全員

【実施時期】2026 年 1 月 5 日（月）～2026 年 2 月 17 日（火）

【報告時期】2026 年 6 月

・報告書を大学ホームページ、ポータルサイトへ掲載

卒業生（4 年次生）アンケートの実施

【対象者】卒業を前にした 4 年次生

【実施時期】2025 年 9 月 12 日（金）～2026 年 3 月 18 日（水）

【報告時期】2026 年 7 月

・報告書を大学ホームページ、ポータルサイトへ掲載

既卒生・就職先アンケートの実施

【対象者】2024 年度 卒業生及びその就職先

【実施時期】2025 年 12 月 1 日（月）～2026 年 1 月 4 日（日）

【報告時期】2026 年 5 月

・ 報告書を大学ホームページ、ポータルサイトへ掲載

2025 年度春学期 学部授業評価アンケート報告書

川崎医療福祉大学

FD・SD 委員会

本学の「学部授業評価」は、2005 年度に開始され、2009 年度からは春学期に講義科目、秋学期に実習・演習科目の授業評価を行い、翌年は学期と科目の組み合わせを逆にし、以降はそれを繰り返し実施してきた。2020 年度からは、分析の強化を図るため、科目の形態にかかわらず学期ごとに履修者 5 名以上の全科目を対象として実施している。

1. 実施状況

1-1 実施対象と実施方法

春学期の履修者数はのべ 35,164 名、対象科目数は 786 科目（基礎教育科目 127 科目、専門科目 647 科目、教職共通科目 12 科目）であった。アンケートは WebClass を使用して、オンラインにて実施した。質問項目は巻末の資料 1 の通りである。

1-2 実施期間

2025 年 7 月 14 日（月）～2025 年 7 月 31 日（木）

2. 実施結果

2-1 回収率

回答数はのべ 28,226 件で、回収率は 80.27%（昨年度 75.76%）と回収率が上昇した。

2-2 評価結果（Q1～Q2、Q5～Q9）

表 1 には（Q1）と（Q2）、（Q5）から（Q9）の質問項目の評価結果を示した。授業の満足度については、4.53 と昨年度 4.54 と同様の高い結果となった。また、授業の理解度についても、4.36 と昨年の 4.39 と同様の高い結果となった。

表 1 Q1～Q2、Q5～Q9 の評価結果（5 点満点：平均値 mean と標準偏差 SD）

Q1 授業の満足度		Q2 授業への意欲		Q5 授業の理解度		Q6 授業内容のまとまり		Q7 教員の臨機応変さ		Q8 シラバスに沿った授業		Q9 授業到達目標の達成	
mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD
4.53	0.60	4.53	0.62	4.36	0.66	4.47	0.65	4.46	0.68	4.53	0.61	4.43	0.65

2-3 評価結果（Q3～Q4、Q10）

1 週間の自己学習時間（Q3）と行った自己学習（Q4）と教員の指導や対応等の改善点（Q10）についての評価結果を表 2 に示した。1 週間の自己学習時間では、「30 分以下」が一番多く、次いで「1 時間程度」となっており、両項目を合わせた人数は 80%を超えていた。行った自己学習では、「復習」が一番多く、次いで「課題」となっていた。教員の指導や対応等の改善点では、

例年と同様に「話し方や資料提示の方法」が 5.21%と一番多い結果となった。

表 2 Q3～Q4 と Q10 の結果（回収数 26,226 件に対する割合：単位%）

Q3 1週間の自己学習時間	4時間程度以上	3時間程度	2時間程度	1時間程度	30分以下		
	3.04	3.06	10.49	32.70	50.71		
Q4 行った自己学習	予習	復習	小テスト対策	課題	その他	行っていない	
	17.39	47.59	15.36	28.78	4.47	21.83	
Q10 教員の指導や対応等の改善点	質疑応答	話し方や資料提示の方法	課題等のフィードバック	学生の私語・遅刻等の対応	教員の遅刻や休講		
	2.07	5.21	1.88	1.36	0.59		

2-4 評価結果（授業の満足度）の分布

図 1 に授業の満足度（Q1）における全科目の度数分布を示した。4.9 以上の科目は 85 科目、3.0 以下の科目は 2 科目あった。この中には回収数ならび回収率の極端に低い科目を含んでいることから、回収率 30%、回答数 10 を超える科目を抽出したところ 587 科目あり（図 2）、その中で 4.9 以上の科目は 11 科目、3.0 以下の科目は 1 科目あった。

図 1 授業の満足度（Q1）における全科目の度数分布（全科目）

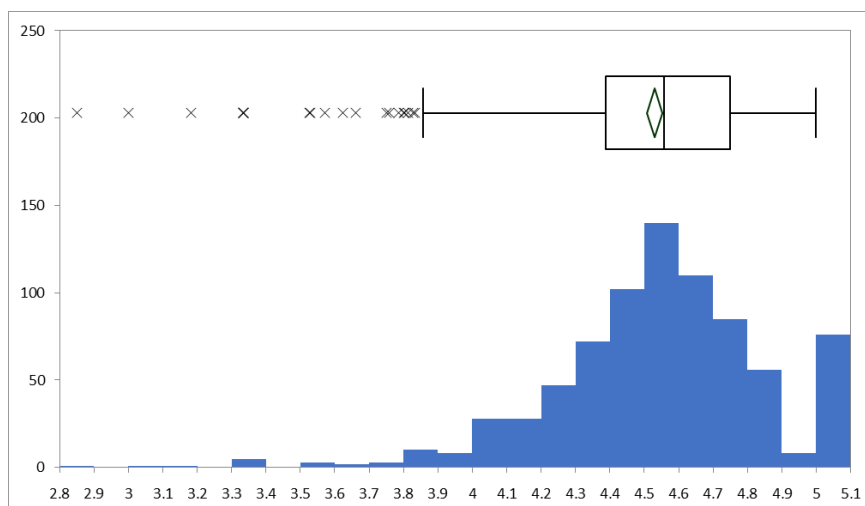
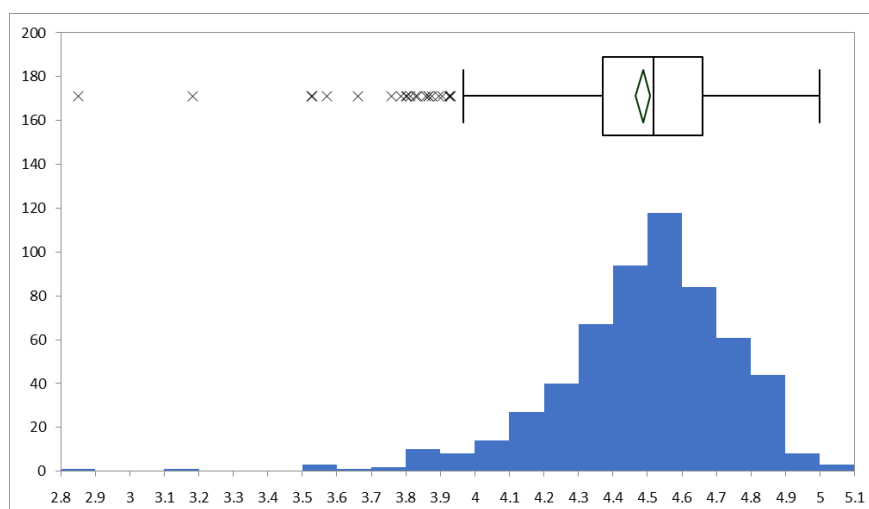


図 2 授業の満足度（Q1）における全科目の度数分布（回収率 30%以上、回答数 10 以上）



3. 関連要因別のまとめ

3-1 授業形態別（表 3）

本学期に実施された授業についての授業形態の内訳は、講義 457 科目、演習 206 科目、実習 90 科目、実技 27 科目、実験 6 科目であった。表 3 に（Q1）と（Q2）、（Q5）から（Q9）の授業形態別の評価結果の平均値を示した。各値は、演習・実習・実技科目で高く、講義・実験科目で低い傾向にあった。

表 3 授業形式別の評価結果（Q1～Q2、Q5～Q9）

	全科目	講義	演習	実習	実技	実験
Q1.授業の満足度	4.53	4.48	4.61	4.58	4.64	4.54
Q2.授業への意欲	4.53	4.46	4.62	4.63	4.60	4.47
Q5.授業の理解度	4.36	4.27	4.47	4.48	4.59	4.24
Q6.授業内容のまとまり	4.47	4.42	4.54	4.50	4.59	4.43
Q7.教員の臨機応変さ	4.46	4.39	4.55	4.52	4.62	4.46
Q8.シラバスに沿った授業	4.53	4.49	4.59	4.55	4.67	4.43
Q9.授業到達目標の達成	4.43	4.38	4.51	4.50	4.63	4.27



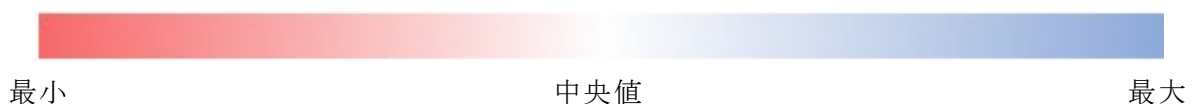
3-2 科目分類別

表 4 に（Q1）と（Q2）、（Q5）から（Q9）の科目分類別の評価結果の平均値を示した。授業の満足度（Q1）に関しては、基礎教育科目 4.53、教職共通科目 4.40、専門科目 4.53 であった。学科別にみると、医療福祉経営学科 4.72、医療データサイエンス学科 4.69、医療福祉デザイン学科 4.66、医療秘書学科 4.65、臨床心理学科 4.64、作業療法学科 4.63、医療福祉学科 4.60、基礎科目の健康体育分野 4.68、国際コミュニケーション分野 4.60 が 4.6 以上の評価であった。4.0 を下回る学科はなかった。

授業の理解度（Q5）に関しては、基礎教育科目 4.33、教職共通科目 4.32、専門科目 4.37 で前回とほぼ同じ水準であった。学科別にみると、医療福祉経営学科 4.55、作業療法学科 4.52、健康体育学科 4.52、基礎科目の健康体育分野 4.63 が 4.5 以上の評価であった。4.0 を下回る学科はなかった。

表4 科目分類別の評価結果（Q1～Q2、Q5～Q9）

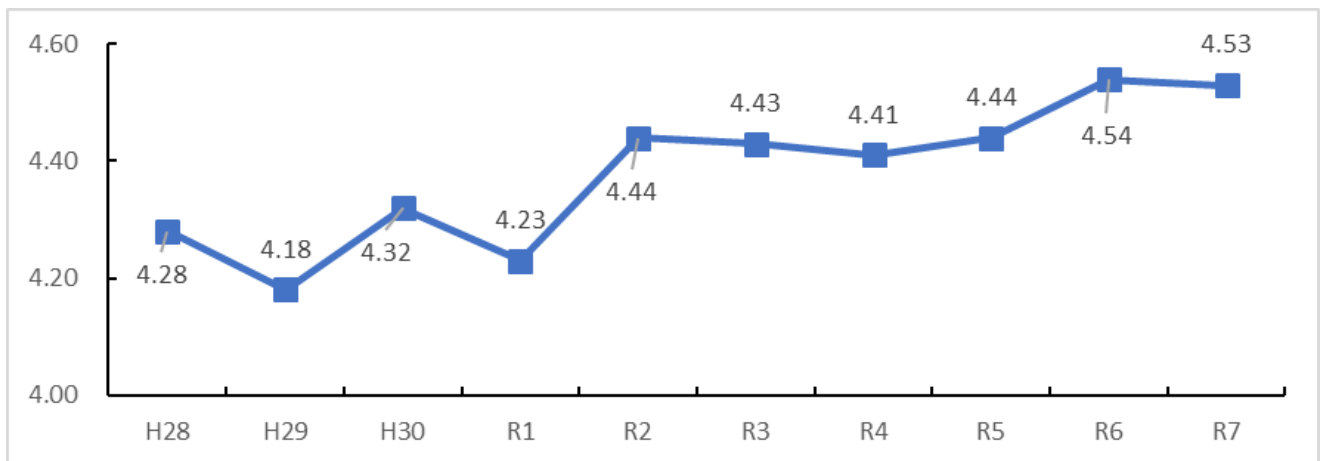
	科目数	①満足度	②意欲	⑤理解度	⑥まとめ	⑦臨機応変さ	⑧シラバス	⑨到達目標
基礎科目	127	4.53	4.51	4.33	4.48	4.46	4.54	4.44
医療福祉	15	4.45	4.41	4.15	4.32	4.24	4.44	4.31
教養	39	4.45	4.45	4.19	4.41	4.40	4.50	4.36
国際コミュニケーション	38	4.60	4.61	4.43	4.55	4.57	4.60	4.49
健康体育	15	4.68	4.63	4.63	4.66	4.65	4.67	4.65
情報	10	4.43	4.40	4.28	4.39	4.30	4.44	4.38
総合	10	4.57	4.49	4.32	4.51	4.42	4.57	4.42
教職科目	12	4.40	4.39	4.32	4.40	4.38	4.45	4.43
教職科目	12	4.40	4.39	4.32	4.40	4.38	4.45	4.43
専門科目	647	4.53	4.53	4.37	4.47	4.46	4.53	4.43
医療福祉学科	56	4.60	4.57	4.47	4.51	4.48	4.55	4.45
臨床心理学科	34	4.64	4.59	4.34	4.57	4.57	4.66	4.43
医療保育学科	50	4.43	4.40	4.28	4.41	4.40	4.40	4.31
保健看護学科	43	4.46	4.51	4.36	4.42	4.40	4.48	4.45
理学療法学科	30	4.38	4.42	4.21	4.28	4.28	4.38	4.33
作業療法学科	34	4.63	4.64	4.52	4.58	4.59	4.61	4.58
言語聴覚療法学科	31	4.54	4.54	4.31	4.44	4.45	4.52	4.44
視能療法学科	25	4.52	4.55	4.30	4.44	4.50	4.53	4.46
臨床検査学科	34	4.41	4.46	4.23	4.36	4.30	4.46	4.32
診療放射線技術学科	46	4.37	4.40	4.21	4.30	4.26	4.41	4.31
臨床工学科	38	4.39	4.42	4.18	4.32	4.28	4.37	4.27
臨床栄養学科	37	4.53	4.59	4.35	4.49	4.52	4.58	4.50
健康体育学科	89	4.59	4.57	4.52	4.54	4.50	4.57	4.51
医療福祉経営学科	23	4.72	4.63	4.55	4.70	4.73	4.77	4.65
医療データサイエンス学科	26	4.69	4.61	4.38	4.55	4.58	4.63	4.49
医療秘書学科	28	4.65	4.64	4.42	4.56	4.54	4.66	4.49
医療福祉デザイン学科	23	4.66	4.62	4.47	4.57	4.53	4.62	4.45
総計	786	4.53	4.53	4.36	4.47	4.46	4.53	4.43



4. まとめ

授業満足度の平均値は 4.53 を示した。前回に引き続き 4.5 を超える値となり、学生の授業に対する満足度は高水準を維持した。特に演習や実技の科目については、学生の授業に対する意欲が高く、教員の対応についても高い評価が得られている。また、授業の理解度についても、4.36 と一昨年と比べて大幅に上がった昨年の水準を維持した。これらの結果は各学科等の教員の努力と工夫が反映されたものだと考えられる。とはいえ、授業の理解度については、他項目と比較すると相対的に低い評価が続いている。学生間の学力格差が非常に大きくなった近年の状況において、専門的な知識の理解度を上げるため、授業方法のさらなる改良・改善が求められる。

図3 授業の満足度の10年間の経年変化



2025年度春学期 学部授業評価アンケート

本学は授業改善及び教職員の能力向上を組織的に進めることを目的とし、FD・SD活動の一環として、毎年授業評価アンケートを実施しています。アンケート以外の目的には一切使用いたしませんので、率直な回答をしてください。なお、本アンケートは、匿名となっており、個人のプライバシーの侵害及び特定は行いません。ただし、所属学科、年次、回答の有無はシステム上で確認できるようにしております。正確なデータ収集及びアンケート回収催促の目的のために使用させていただく場合がありますのでご了承ください。

このアンケートの回答は匿名で行われます。集計結果に、あなたの氏名は表示されません。

問1 必須

この授業は全体として満足できるものでしたか。

- ☐ そう思う
- ☐ やや思う
- ☐ どちらでもない
- ☐ やや思わない
- ☐ そう思わない

問2 必須

この授業を意欲的に受けましたか。

- ☐ そう思う
- ☐ やや思う
- ☐ どちらでもない
- ☐ やや思わない
- ☐ そう思わない

問3 必須

この授業の予習・復習などの自己学習時間は、平均すると1週間にどの程度ですか。

- ☐ 4時間程度以上
- ☐ 3時間程度
- ☐ 2時間程度
- ☐ 1時間程度
- ☐ 30分以下

問4 必須

自己学習は何を行いましたか。(複数回答可)

- ☐ 予習
- ☐ 復習
- ☐ 小テスト対策
- ☐ 課題
- ☐ その他
- ☐ 行っていない

問5 必須

授業の内容を十分に理解できましたか。

- ☐ そう思う
- ☐ やや思う
- ☐ どちらでもない
- ☐ やや思わない
- ☐ そう思わない

問6 必須

授業の内容は整理され、よくまとまっていましたか。

- ☐ そう思う
- ☐ やや思う
- ☐ どちらでもない
- ☐ やや思わない
- ☐ そう思わない

問7 必須

教員は、受講生の理解が進むよう、受講生の様子をよく見ながら臨機応変に授業を進めていましたか。

- ☐ そう思う
- ☐ やや思う
- ☐ どちらでもない
- ☐ やや思わない
- ☐ そう思わない

問8 必須

この授業は、シラバスに記載されている授業のねらいや到達目標を踏まえ、授業計画・評価方法等の記載内容に沿って行われましたか。

- ☐ そう思う
- ☐ やや思う
- ☐ どちらでもない
- ☐ やや思わない
- ☐ そう思わない

問9 必須

本科目のシラバスに記載されている到達目標を達成できましたか。

- ☐ そう思う
- ☐ やや思う
- ☐ どちらでもない
- ☐ やや思わない
- ☐ そう思わない

問10

教員の指導・対応などに改善の必要があったと思う人のみ教えてください。それは、次のどれですか。（複数回答可）

- ☐ 質疑応答
- ☐ 話し方や資料提示の方法
- ☐ 課題等のフィードバック
- ☐ 学生の私語・遅刻等の対処
- ☐ 教員の遅刻や休講

回答する

2025 年度秋学期 学部授業評価アンケート報告書

川崎医療福祉大学
FD・SD 委員会

本学の「学部授業評価」は、2005 年度に開始され、2009 年度からは春学期に講義科目、秋学期に実習・演習科目の授業評価を行い、翌年は学期と科目の組み合わせを逆にし、以降はそれを繰り返し実施してきた。2020 年度からは科目の形態にかかわらず学期ごとに履修者 5 名以上の全科目を対象として実施している。

1. 実施状況

1-1 実施対象と実施方法

秋学期の履修者数はのべ 30,378 名、対象科目数は 753 科目（基礎教育科目 104 科目、専門科目 640 科目、教職共通科目 9 科目）であった。アンケートは WebClass を使用して、オンラインにて実施した。質問項目は巻末の資料 1 の通りである。

1-2 実施期間

2026 年 1 月 15 日（木）～2026 年 2 月 28 日（土）

2. 実施結果

2-1 回収率

回答数はのべ 20,354 件で、回収率は 67.00%（昨年度 66.86%）と昨年よりやや改善した。

2-2 評価結果（Q1）～（Q2）、（Q5）～（Q9）

表 1 には（Q1）から（Q2）、（Q5）から（Q9）の質問項目の評価結果を示した。授業の満足度については、4.53 と昨年度 4.55 とほぼ同じ結果となった。また、授業の理解度についても、4.37 と昨年の 4.41 とほぼ同じ結果となった。

表 1 Q1～Q2、Q5～Q9 の評価結果（5 点満点：平均値 mean と標準偏差 SD）

Q1 授業の満足度		Q2 授業への意欲		Q5 授業の理解度		Q6 授業内容のまとまり		Q7 教員の臨機応変さ		Q8 シラバスに沿った授業		Q9 授業到達目標の達成	
mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD
4.53	0.57	4.54	0.58	4.37	0.67	4.48	0.60	4.48	0.62	4.54	0.56	4.44	0.60

2-3 評価結果（Q3、Q4、Q10）

1 週間の自己学習時間（Q3）、行った自己学習（Q4）と教員の指導や対応等の改善点（Q10）についての評価結果を表 2 に示した。1 週間の自己学習時間では、「30 分以下」が一番多く、次いで「1 時間程度」となっており、両項目を合わせた人数は 82.35%であり、昨年度の 76.99%と比べ増加傾向がみられた。行なった自己学習では、「復習」が一番多く、次いで「課題」となっている。

いた。教員の指導や対応等の改善点では、例年と同様に「話し方や資料提示の方法」が 4.55%と一番多い結果となり、昨年度の 3.65%と比べて増加傾向がみられた。

表 2 Q3、Q4、Q10 の結果（単位%、Q4、Q10 複数回答可）

Q3	4時間程度以上	3時間程度	2時間程度	1時間程度	30分以下		
1週間の自己学習時間	4.08	3.22	10.36	31.57	50.78		
Q4	予習	復習	小テスト対策	課題	その他	行っていない	
行った自己学習	16.18	46.11	17.40	30.10	3.76	22.11	
Q10	質疑応答	話し方や資料提示の方法	課題等のフィードバック	学生の私語・遅刻等の対応	教員の遅刻や休講		
教員の指導や対応等の改善点	1.97	4.55	1.85	1.11	0.64		

2-4 評価結果（授業の満足度）の分布

図 1 に授業の満足度（Q1）における全科目の度数分布を示した。4.9 以上の科目は 97 科目（昨年度 121 科目）あり、3.0 以下の科目は 8 科目（昨年度 1 科目）あった。この中には回収数ならび回収率の極端に低い科目を含んでいることから、回収率 30%、回答数 10 を超える科目を抽出したところ 484 科目あり（図 2）、その中で 4.9 以上の科目は 13 科目（昨年度 10 科目）、3.0 以下の科目は 2 科目（昨年度 1 科目）であった。

図 1 授業の満足度（Q1）における全科目の度数分布（全科目）

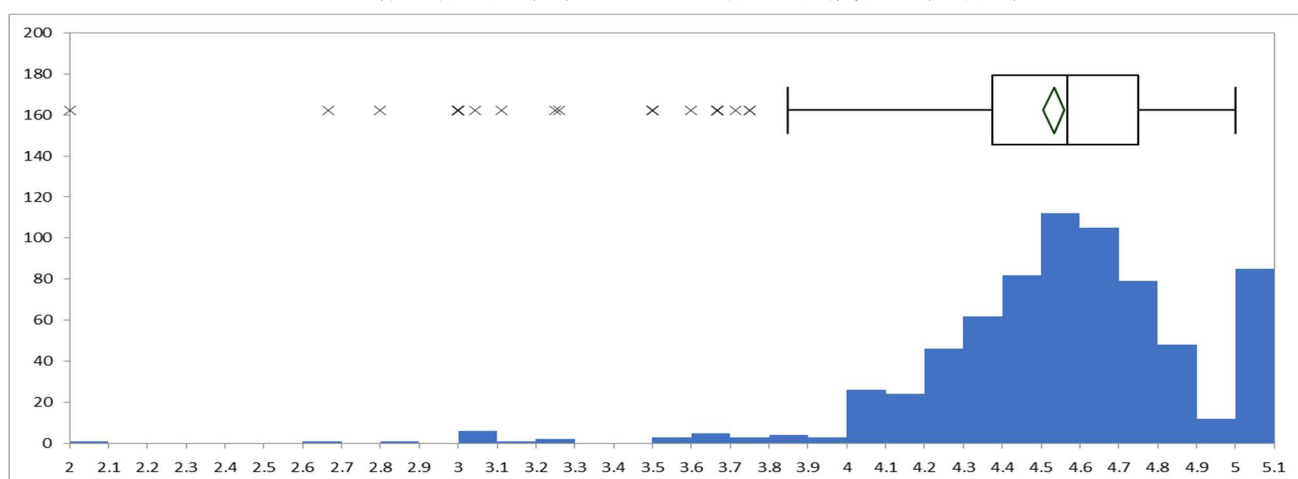
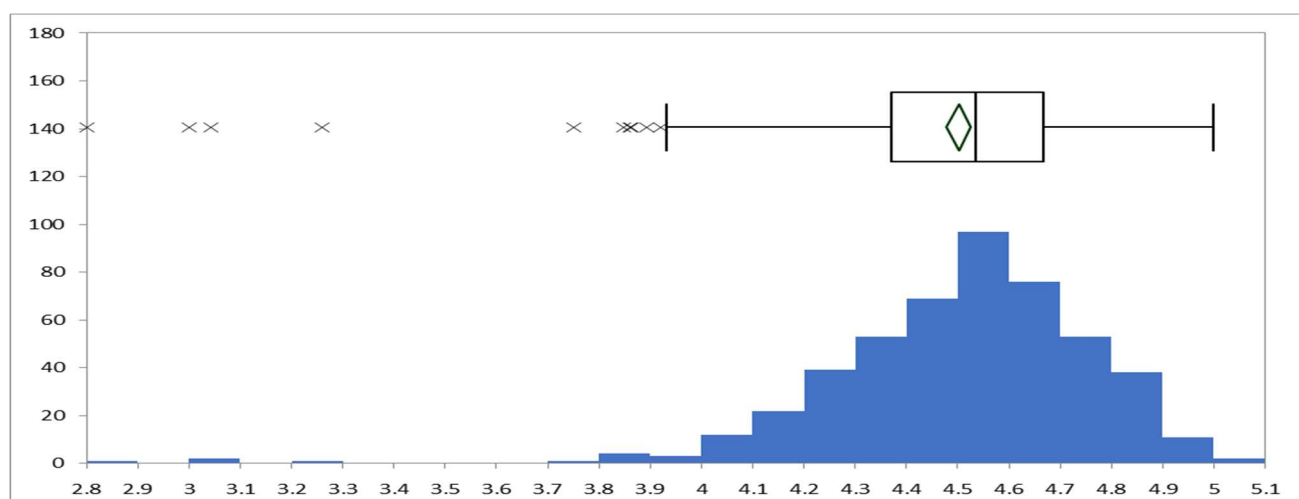


図 2 授業の満足度 (Q1) における全科目の度数分布 (回収率 30%以上、回答数 10 以上)



3. 関連要因別のまとめ

3-1 授業形態別 (表 3)

本学期に実施された授業についての授業形態の内訳は、講義 391 科目、演習 207 科目、実習 90 科目、実技 20 科目、実験 3 科目であった。表 3 に (Q1) から (Q2)、(Q5) から (Q9) の授業形態別の評価結果の平均値を示した。全ての項目で、講義・実験科目が低く、演習・実習・実技科目が高い傾向にあった。

表 3 授業形式別の評価結果 (Q1～Q2、Q5～Q9)

	全科目	講義	演習	実習	実技	実験
Q1.授業の満足度	4.53	4.47	4.58	4.66	4.71	4.61
Q2.授業への意欲	4.54	4.45	4.60	4.73	4.68	4.65
Q5.授業の理解度	4.37	4.28	4.45	4.56	4.63	4.38
Q6.授業内容のまとめ	4.48	4.42	4.53	4.61	4.63	4.47
Q7.教員の臨機応変さ	4.48	4.41	4.55	4.61	4.62	4.54
Q8.シラバスに沿った授業	4.54	4.49	4.57	4.67	4.64	4.55
Q9.授業到達目標の達成	4.44	4.38	4.49	4.53	4.64	4.49

最小

中央値

最大

3-2 科目分類別

表 4 に (Q1) から (Q2)、(Q5) から (Q9) の科目分類別の評価結果の平均値を示した。授業の満足度 (Q1) に関しては、基礎教育科目 4.47、教職共通科目 4.44、専門科目 4.54 であった。特に教職共通科目は、昨年 4.56 と比べ 0.12 減少した。学科・分野別にみると、基礎教育科目の健康体育分野 4.72 が 4.7 以上の評価であった。4.0 を下回る学科・分野はなかった。

授業の理解度（Q5）に関しては、基礎教育科目 4.32、教職共通科目 4.31、専門科目 4.38 であった。特に教職共通科目は、昨年 4.49 と比べ 0.17 減少した。学科別にみると、臨床栄養学科 4.51、健康体育学科 4.51、医療福祉経営学科 4.55、医療福祉デザイン学科 4.57、基礎教育科目の健康体育分野 4.63 が 4.5 以上の評価であった。特に、臨床栄養学科は、昨年 4.25 と比べ 0.26 上昇した。4.0 を下回る学科・分野はなかった。

表 4 科目分類別の評価結果（Q1～Q2、Q5～Q9）

	科目数	①満足度	②意欲	⑤理解度	⑥まとめ	⑦臨機応変さ	⑧シラパス	⑨到達目標
基礎科目	103	4.47	4.44	4.32	4.43	4.44	4.50	4.40
医療福祉	4	4.17	4.26	4.14	4.17	4.14	4.27	4.25
教養	30	4.37	4.32	4.16	4.33	4.31	4.41	4.27
国際コミュニケーション	37	4.54	4.53	4.38	4.51	4.52	4.56	4.46
健康体育	13	4.72	4.67	4.63	4.65	4.66	4.68	4.65
情報	7	4.33	4.33	4.23	4.34	4.32	4.41	4.34
総合	12	4.41	4.33	4.33	4.36	4.42	4.48	4.36
教職科目	9	4.44	4.36	4.31	4.35	4.40	4.52	4.40
教職科目	9	4.44	4.36	4.31	4.35	4.40	4.52	4.40
専門科目	599	4.54	4.55	4.38	4.49	4.49	4.54	4.45
医療福祉学科	58	4.61	4.52	4.41	4.51	4.51	4.55	4.46
臨床心理学科	35	4.57	4.53	4.34	4.57	4.54	4.58	4.38
医療保育学科	38	4.63	4.62	4.48	4.60	4.60	4.63	4.55
保健看護学科	37	4.49	4.53	4.40	4.43	4.39	4.44	4.43
理学療法学科	35	4.38	4.34	4.21	4.26	4.30	4.37	4.31
作業療法学科	30	4.51	4.53	4.43	4.45	4.52	4.50	4.42
言語聴覚療法学科	28	4.53	4.56	4.36	4.47	4.47	4.56	4.45
視能療法学科	29	4.58	4.66	4.39	4.50	4.53	4.56	4.48
臨床検査学科	33	4.37	4.45	4.18	4.33	4.28	4.40	4.30
診療放射線技術学科	33	4.38	4.41	4.23	4.32	4.30	4.42	4.36
臨床工学科	46	4.49	4.45	4.28	4.44	4.38	4.44	4.32
臨床栄養学科	35	4.67	4.68	4.51	4.63	4.65	4.71	4.46
健康体育学科	74	4.63	4.65	4.51	4.58	4.57	4.61	4.55
医療福祉経営学科	15	4.59	4.62	4.55	4.66	4.61	4.65	4.61
医療データサイエンス学科	28	4.51	4.55	4.36	4.48	4.50	4.55	4.51
医療秘書学科	25	4.66	4.69	4.25	4.52	4.60	4.63	4.38
医療福祉デザイン学科	20	4.62	4.71	4.57	4.62	4.60	4.77	4.68
総計	711	4.53	4.54	4.37	4.48	4.48	4.54	4.44

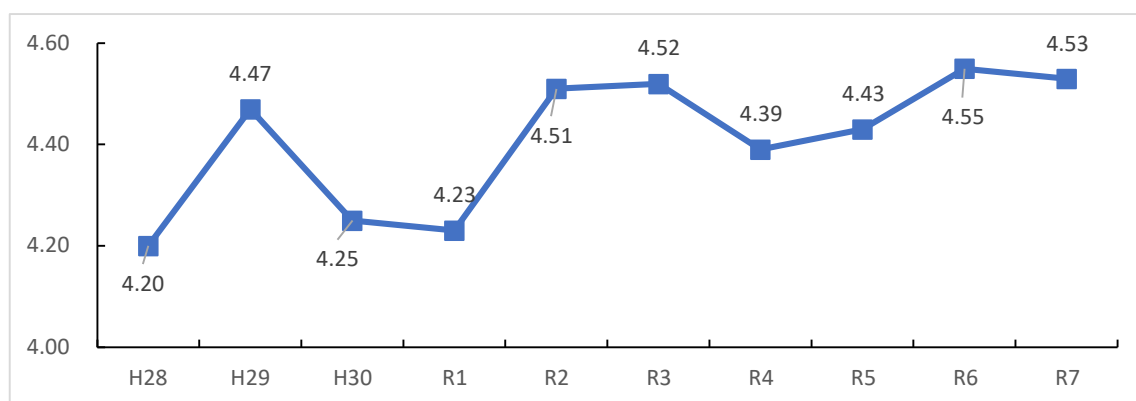


4. まとめ

授業満足度の平均値は 4.53 を示した。昨年同様に高水準の値となり、学生の授業に対する満足度は高かった。特に実習や実技の科目については、学生の授業に対する意欲が高く、教員の対応についても高い評価が得られている。一方で、昨年と比べ 3.0 以下の低評価の科目が増加

したのは、懸念点である。また、授業の理解度の平均値についても、4.37と昨年4.41同様に、近年伸び悩んでいた項目にしては、高めの値となった。これらの結果は各学科等の教員の努力と工夫が反映されたものだと考えられる。とはいえ、授業の理解度については、他項目と比較すると相対的に低い評価が続いている。学生間の学力格差が非常に大きくなった近年の状況において、専門的な知識の理解度を上げるため、授業方法のさらなる改良・改善が求められる。

図3 授業の満足度の10年間の経年変化



2025年度秋学期 学部授業評価アンケート

本学は授業改善及び教職員の能力向上を組織的に進めることを目的とし、FD・SD活動の一環として、毎年授業評価アンケートを実施しています。アンケート以外の目的には一切使用いたしませんので、率直な回答をしてください。なお、本アンケートは、匿名となっており、個人のプライバシーの侵害及び特定は行いません。ただし、所属学科、年次、回答の有無はシステム上で確認できるようにしております。正確なデータ収集及びアンケート回収催促の目的のために使用させていただく場合がありますのでご了承ください。

このアンケートの回答は匿名で行われます。集計結果に、あなたの氏名は表示されません。

問1 必須

この授業は全体として満足できるものでしたか。

- ☐ そう思う
- ☐ やや思う
- ☐ どちらでもない
- ☐ やや思わない
- ☐ そう思わない

問2 必須

この授業を意欲的に受けましたか。

- ☐ そう思う
- ☐ やや思う
- ☐ どちらでもない
- ☐ やや思わない
- ☐ そう思わない

問3 必須

この授業の予習・復習などの自己学習時間は、平均すると1週間にどの程度ですか。

- ☐ 4時間程度以上
- ☐ 3時間程度
- ☐ 2時間程度
- ☐ 1時間程度
- ☐ 30分以下

問4 必須

自己学習は何を行いましたか。(複数回答可)

- ☐ 予習
- ☐ 復習
- ☐ 小テスト対策
- ☐ 課題
- ☐ その他
- ☐ 行っていない

問5 必須

授業の内容を十分に理解できましたか。

- ☐ そう思う
- ☐ やや思う
- ☐ どちらでもない
- ☐ やや思わない
- ☐ そう思わない

問6 必須

授業の内容は整理され、よくまとまっていましたか。

- ☐ そう思う
- ☐ やや思う
- ☐ どちらでもない
- ☐ やや思わない
- ☐ そう思わない

問7 必須

教員は、受講生の理解が進むよう、受講生の様子をよく見ながら臨機応変に授業を進めていましたか。

- ☐ そう思う
- ☐ やや思う
- ☐ どちらでもない
- ☐ やや思わない
- ☐ そう思わない

問8 必須

この授業は、シラバスに記載されている授業のねらいや到達目標を踏まえ、授業計画・評価方法等の記載内容に沿って行われましたか。

- ☐ そう思う
- ☐ やや思う
- ☐ どちらでもない
- ☐ やや思わない
- ☐ そう思わない

問9 必須

本科目のシラバスに記載されている到達目標を達成できましたか。

- ☐ そう思う
- ☐ やや思う
- ☐ どちらでもない
- ☐ やや思わない
- ☐ そう思わない

問10

教員の指導・対応などに改善の必要があったと思う人のみ教えてください。それは、次のどれですか。（複数回答可）

- ☐ 質疑応答
- ☐ 話し方や資料提示の方法
- ☐ 課題等のフィードバック
- ☐ 学生の私語・遅刻等の対処
- ☐ 教員の遅刻や休講

回答する

2025年度秋学期 学部授業評価アンケート

2025 年度 大学院生アンケート報告書

川崎医療福祉大学

FD・SD 委員会

本学の「大学院生アンケート」は専攻での教育・研究について大学院生がどのように評価しているかを把握するために行っている。この調査は、2008 年度より始まり、毎年実施している。

1. 実施状況

1-1 実施対象と実施方法

対象は大学院生全員で、2025 年度の対象者数は 126 名であった。アンケートはポータルサイト上の WebClass で実施した。質問項目は巻末の資料 1 の通りである。

1-2 実施期間

2026 年 1 月 5 日（月）～2026 年 2 月 17 日（火）

2. 実施結果

2-1 回収率

修士課程 在籍者 101 名に対して 59 名から回答を得た（回収率：58.41%）

博士後期課程 在籍者 25 名に対して 13 名から回答を得た（回収率：52.00%）

2-2 修士課程全体・博士後期課程全体の結果

修士課程において、専攻の教育全体に対する満足度 (Q3)、研究課題に対する主体的な取り組み (Q7)、指導教員(副指導教員を含む)の研究指導に対する満足度 (Q8)、研究成果の公開機会(中間研究報告会、学会発表、論文投稿など)の多さ (Q9)、実験・研究・実習の設備・施設及び図書に対する満足度 (Q10)、また、博士課程において、Q3 から Q12 までの全ての項目の平均値は 4.0 以上と概ね肯定的に評価されていた。一方、修士課程では、昨年度と比べて、Q4、Q5、Q6 の平均値が 4 点台から 3 点台になったのに加え、Q11 を除く 9 項目が昨年度と比べて減少していた。

2-3 各質問項目の記述統計値－各専攻別の結果（表 1・表 2）

Q3 専攻の教育全体に対する満足度（修士平均 4.00、博士平均 4.62）

修士課程では、4.5 以上が 3 専攻で、4.0 未満が 4 専攻であった。博士後期課程においては、4.5 以上が 4 専攻、4.0 未満が 1 専攻であった。

Q4 カリキュラム体系に対する評価（修士平均 3.92、博士平均 4.69）

修士課程においては、4.5 以上が 4 専攻、4.0 未満が 5 専攻であった。博士後期課程においては、4.5 以上が 4 専攻、4.0 未満の専攻はなかった。

Q5 シラバス記載の到達目標の達成度（修士平均 3.83、博士平均 4.46）

修士課程においては、4.5 以上が 1 専攻、4.0 未満が 5 専攻であった。博士後期課程においては、4.5 以上が 4 専攻で、4.0 未満の専攻は 1 専攻であった。

Q6 高度専門職者として必要な知識・技術の習得度（修士平均 3.78、博士平均 4.54）

修士課程においては、4.5 以上が 2 専攻、4.0 未満が 4 専攻であった。博士後期課程においては、4.5 以上が 4 専攻で、4.0 未満の専攻は 1 専攻であった。

Q7 研究課題に対する主体的な取り組み（修士平均 4.05、博士平均 4.69）

修士課程においては、4.5 以上が 4 専攻、4.0 未満が 3 専攻であった。博士後期課程においては、4.5 以上が 5 専攻で、4.0 未満の専攻はなかった。

Q8 指導教員（副指導教員を含む）の研究指導に対する満足度（修士平均 4.25、博士平均 4.77）

修士課程においては、4.5 以上が 5 専攻で、4.0 未満の専攻は 2 専攻であった。博士後期課程においては、4.5 以上が 4 専攻で、4.0 未満の専攻はなかった。

Q9 研究成果を公開する機会（中間研究報告会、学会発表、論文投稿など）の多さ（修士平均 4.32、博士平均 4.92）

修士課程においては、4.5 以上が 6 専攻、4.0 未満が 2 専攻であった。博士後期課程においては、4.5 以上が 5 専攻、4.0 未満の専攻はなかった。

Q10 実験・研究・実習の設備・施設及び図書に対する満足度（修士平均 4.10、博士平均 4.46）

修士課程においては、4.5 以上が 3 専攻、4.0 未満が 3 専攻であった。博士後期課程においては、4.5 以上 3 専攻、4.0 未満が 2 専攻であった。

Q11 社会（病院や施設などの現場）との連携に対する満足度（修士平均 3.86、博士平均 4.46）

修士課程においては、4.5 以上が 3 専攻、4.0 未満が 5 専攻であった。博士後期課程においては、4.5 以上が 4 専攻、4.0 未満が 1 専攻であった。

Q12 他専攻の教員・大学院生との対話・交流に対する満足度（修士平均 3.39、博士平均 4.31）

修士課程においては、4.5 以上が 2 専攻、4.0 未満が 8 専攻であった。博士後期課程においては、4.5 以上が 4 専攻、4.0 未満が 1 専攻であった。

表 1 修士課程結果

修士	人数	Q3全体満足	Q4カリキュラム	Q5目標達成	Q6知技習得	Q7主体取組	Q8研究指導	Q9成果公開	Q10設備施設	Q11社会連携	Q12他交流
福祉	8	3.75	3.88	4.38	4.00	4.13	4.00	4.38	4.13	3.88	2.88
心理	17	4.35	4.18	3.94	4.12	4.06	4.65	4.76	4.41	4.12	3.35
保看	15	3.73	3.73	3.60	3.33	3.87	3.93	3.60	3.67	3.60	3.67
感覚	2	3.00	3.00	3.00	3.00	4.00	4.50	5.00	4.50	4.50	2.50
健体	4	4.50	4.50	4.25	4.25	4.75	4.50	4.75	4.25	3.75	3.75
栄養	1	4.00	3.00	3.00	3.00	2.00	4.00	4.00	3.00	3.00	1.00
リハ	4	2.75	2.25	2.50	2.25	3.50	3.50	3.75	3.50	2.75	2.50
技術	4	4.25	4.50	4.25	4.25	4.50	4.00	4.50	4.25	4.00	3.75
経営	2	5.00	5.00	4.50	5.00	4.50	5.00	5.00	4.50	5.00	5.00
情報	2	5.00	4.50	4.00	4.50	4.50	5.00	4.50	5.00	4.50	4.50
総計	59	4.00	3.92	3.83	3.78	4.05	4.25	4.32	4.10	3.86	3.39

表 2 博士課程結果

博士	人数	Q3全体満足	Q4カリキュラム	Q5目標達成	Q6知技習得	Q7主体取組	Q8研究指導	Q9成果公開	Q10設備施設	Q11社会連携	Q12他交流
福祉	2	3.00	4.00	3.00	3.00	5.00	4.00	5.00	3.50	2.00	2.00
保看	6	5.00	4.83	4.67	4.83	4.50	5.00	5.00	5.00	5.00	4.67
感覚	1	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	4.00	5.00	5.00
健康	1	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
技術	1	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	2.00	4.00	4.00
マネ	2	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
総計	13	4.62	4.69	4.46	4.54	4.69	4.77	4.92	4.46	4.46	4.31

3. 自由記述

長期履修制度により社会人でも学びやすいことや、教員による丁寧な指導・面談体制への感謝といった意見があった。一方で、教員からの返信遅延や指導・評価基準の不統一への不満、施設利用制限や土曜開催行事の負担、設備（図書・プリンター）への改善要望、他専攻との交流機会の不足を指摘する意見もみられた。自由記述をまとめたものについては、別途保管する。

4. まとめ

アンケート回収率が、修士課程で 58.41%（昨年度 54.13%）、博士後期課程で 52.00%（昨年度 45.00%）と若干の上昇傾向はあるとはいえ、依然低い水準であった。今後、回収率をあげ、まずは 70%程度を目標とし、調査の精度を高める必要がある。

専攻の教育全体に対する満足度の平均値は、修士課程で 4.00、博士後期課程で 4.62 であった。質問項目が大学院教育の中核を占める内容で構成されていることからすれば、修士課程並びに博士後期課程の教育・研究体制に対する大学院学生の満足度は総じて高いと言える。特に、博士後期課程では、ここ 10 年で最高値となった。一方で、修士課程については、昨年までの低い水準と比較して、さらに全体の満足度が低下し、ここ 10 年で最低値となった。令和 1～4 年の 4.5 前後の値に戻すべく、原因の究明と対策を進めていきたい。

質問項目別では、博士後期課程においては、全ての項目において、平均値が 4.0 以上となった。一方で、修士においては、昨年までの「社会との連携」の満足度、および、「他専攻との対話・交流」の満足

度が 4.0 を下回った結果に加え、「カリキュラム体系」の満足度、「到達目標達成」の満足度、「知識・技術の習得」の満足度が、新たに 4.0 を下回る値を示した。また、Q3 から Q12 までの全ての項目について、修士課程の平均値が、博士後期課程の平均値を下回っており、今後の課題として取り組む必要がある。

図 1 専攻の教育全体に対する満足度の 10 年間の経年変化（修士課程）

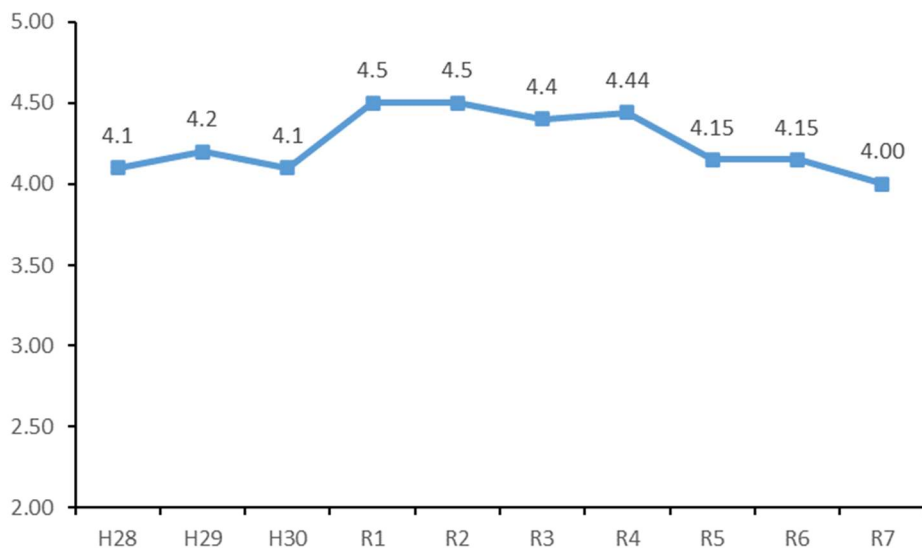
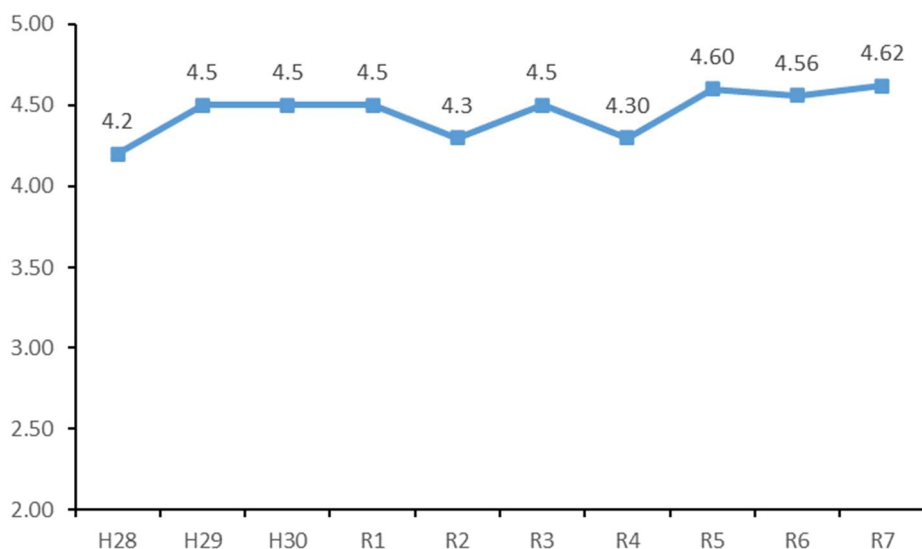


図 2 専攻の教育全体に対する満足度の 10 年間の経年変化（博士課程）



2025年度 大学院生アンケート

本学は授業改善及び教職員の能力向上を組織的に進めることを目的とし、FD・SD活動の一環として、毎年大学院生アンケートを実施しています。アンケート結果につきましては、集計後、本学ホームページにて公開いたします。

本アンケートは匿名となっており、個人のプライバシーの侵害及びアンケートの目的以外の使用はいたしませんので、率直に回答してください。

なお、所属専攻、年次、回答の有無はシステム上で確認できるようにしていますが、アンケート回答の督促及び集計のためのみに使用しますのでご了承ください。

問1 必須

所属している課程を選択してください。

- ☐ 1 修士課程
- ☐ 2 博士後期課程

問2 必須

所属している専攻を選択してください。

- ☐ 1 医療福祉学専攻
- ☐ 2 臨床心理学専攻
- ☐ 3 保健看護学専攻
- ☐ 4 感覚矯正学専攻
- ☐ 5 健康体育学専攻
- ☐ 6 臨床栄養学専攻
- ☐ 7 リハビリテーション学専攻
- ☐ 8 健康科学専攻
- ☐ 9 医療技術学専攻
- ☐ 10 医療福祉経営学専攻
- ☐ 11 医療秘書学専攻
- ☐ 12 医療福祉デザイン学専攻
- ☐ 13 医療情報学専攻
- ☐ 14 医療福祉マネジメント学専攻

問3 必須

専攻の教育は全体として満足できるものでしたか。

満足できなかった
未回答
 満足できた

問4 必須

専攻の教育課程（カリキュラム）は体系的でしたか。

体系的ではなかった
未回答
 体系的だった

問5 必須

個々の授業のシラバスに記載されている到達目標を達成できましたか。

達成できなかった
未回答
 達成できた

問6 必須

個々の授業を履修することで、高度専門職者として必要な知識・技術を習得できましたか。

未回答

習得できなかった  習得できた

問7 必須

研究課題に対して探求心をもって主体的に取り組むことができましたか。

未回答

取り組むことができなかった  取り組むことができた

問8 必須

指導教員（副指導教員を含む）の研究指導は満足できるものでしたか。

未回答

満足できなかった  満足できた

問9 必須

研究成果を公開する機会（中間研究報告会、学会発表、論文投稿など）は十分にありましたか。

未回答

十分になかった  十分にあった

問10 必須

実験・研究・実習の設備・施設及び図書は満足できるものでしたか。

未回答

満足できなかった  満足できた

問11 必須

社会（病院や施設などの現場）との連携は満足できるものでしたか。

未回答

満足できなかった  満足できた

問12 必須

他専攻の教員や大学院生との対話や交流は満足できるものでしたか。

未回答

満足できなかった  満足できた

問13

大学院の教育について、何かご意見があればご自由にお書きください。（任意）

回答する

2025年度 大学院生アンケート

2025 年度 卒業生（4 年次生）アンケート報告書

川崎医療福祉大学
FD・SD 委員会

本学の「卒業生（4 年次生）アンケート」は、入学依頼の本学の教育課程に対する満足度およびディプロマ・ポリシーの達成度を把握するために行っている。この調査は、2006 年度より始まり、毎年実施している。

1. 実施状況

1-1 実施対象と実施方法

対象は卒業を前にした 4 年次生で、2025 年度の対象者数は 945 名であった。アンケートは WebClass を使用して、オンラインにて実施した。質問項目は巻末の資料 1 の通りである。

1-2 実施期間

2025 年 9 月 12 日（金）～2026 年 3 月 18 日（水）

2. 実施結果

2-1 回収率

回答数は 817 件で、回収率は 86.46%と、昨年度 95.60%を下回った。最も回収率の高い学科は 100%、最も低い学科は 83.1%であった。来年度は、昨年度並みまでに回収率を回復するための準備をすすめる。

2-2 卒業後の進路（質問 1）

全学的には医療機関 61.93%（昨年度 61.48%）、福祉施設 9.67%（昨年度 9.44%）、医療・福祉系企業 5.75%（昨年度 6.01%）、一般企業 9.55%（昨年度 8.15%）、官公庁（公務員）6.85%（昨年度 6.12%）、進学 2.94%（昨年度 4.94%）、その他 3.30%（昨年度 3.86%）であった。昨年に比べて就職者が 1%以上増加したのが、一般企業で、1%以上減少したのが進学であった。

2-3 教育全体に対する満足度（質問 2）

全学の教育全体に対する満足度の平均値は 4.09（昨年度 4.05）であった。学科別にみると、視能療法学科 4.29 が最も高く医療福祉経営学科 3.40 が最も低かった。

表 1 学科別の教育全体に対する満足度、ディプロマ・ポリシー達成度、授業に対する評価

学科	人数	#2-3 満足度	#2-4 ディプロマポリシー達成度				#2-5 授業に対する評価		
			①	②	③	④	まとめり	臨機応変	シラバス適合
11 福祉	53	4.17	4.06	4.08	4.00	4.00	4.11	3.98	4.17
12 心理	57	4.11	4.00	3.98	4.05	3.70	4.16	4.19	4.19
13 保育	42	3.86	3.86	3.95	3.93	3.86	3.98	3.90	4.02
21 看護	107	4.12	4.07	4.14	4.12	4.09	4.10	4.11	4.33
31 理学	74	4.18	3.96	3.92	3.95	3.92	3.97	3.95	4.09
32 作業	57	4.14	3.93	3.96	3.91	3.86	4.25	4.32	4.37
33 言語	49	3.94	4.06	4.06	4.02	3.86	4.12	3.96	4.39
34 視能	24	4.29	4.17	4.25	4.13	4.17	4.29	4.25	4.25
41 臨検	64	4.27	4.11	4.09	4.05	4.02	4.22	4.17	4.42
42 放射	72	3.85	3.86	4.06	3.88	3.93	3.89	3.79	4.17
43 臨工	54	4.09	4.24	4.31	4.13	4.33	4.17	4.20	4.37
44 栄養	27	4.22	4.22	4.26	4.11	4.04	4.33	4.22	4.07
45 健体	76	4.13	4.18	4.33	4.21	4.18	4.17	4.18	4.17
51 経営	10	3.40	3.80	3.60	3.90	3.60	3.80	4.00	3.90
52 秘書	15	4.13	4.33	4.40	4.33	4.13	4.27	4.13	4.27
53 DS	25	4.16	4.00	3.96	4.08	4.12	4.08	4.44	4.48
54 デザ	11	4.00	4.00	4.18	3.82	3.64	3.55	3.64	4.09
総計	817	4.09	4.05	4.10	4.04	4.00	4.11	4.09	4.24

2-4 ディプロマ・ポリシーの達成度（質問 3）

4 つのディプロマ・ポリシーについて、達成度を 5 段階で評価してもらった。それぞれ平均値を示すと、「①幅広い教養、豊かな感性、人間理解、並びに国際的コミュニケーション能力を身につけるとともに、一人の人間として、他者と関わるための豊かな心を持ち、福祉社会の担い手と成り得るための体力を身につける。」4.05（昨年度 3.96）、「②豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探求する姿勢を身につける。」4.10（昨年度 4.00）、「③医療福祉という総合的な視点を持ち、学際的に議論する力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療と福祉の両分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。」4.04（昨年度 3.99）、「④4 年間にわたる体系的な学習を通して、専門的な医療福祉人に必要な高いレベルの専門的学力や技術力、さらには、スペシャリストとしての指導力を身につける。」4.00（昨年度 3.89）であった。全ての項目で達成度が高くなり、値も全て 4 以上となった。

2-5 在学中に受講した授業についての評価（質問 4～6）

在学中に受講した授業について、5 段階で評価してもらった。それぞれ平均値を示すと、授業内容のまとめり（質問 4）4.11（昨年度 4.04）、教員の臨機応変さ（質問 5）4.09（昨年度 4.02）、シラバスに沿った内容（質問 6）4.24（昨年度 4.16）であった。

2-6 基礎教育科目の分野別満足度（質問 7）

基礎教育科目の満足度の平均値を分野別にみると、医療福祉分野が 4.11（昨年度 4.08）と高く、国際コミュニケーション分野が 3.73（昨年度 3.83）と低かった。

表 2 科目分類別の授業満足

学科	人数	基礎教育科目						専門科目			
		医療福祉	教養	国際コミュ	健康体育	情報	総合	講義	演習	実習	卒研
11 福祉	53	4.32	4.02	3.75	4.11	3.96	4.19	4.34	4.23	4.42	4.42
12 心理	57	4.21	4.12	3.86	3.95	4.02	4.09	4.23	4.11	4.05	4.51
13 保育	42	4.07	3.93	3.45	3.95	3.86	3.88	4.02	4.12	4.17	4.19
21 看護	107	4.11	4.12	3.81	4.11	3.96	4.10	4.20	4.24	4.31	4.21
31 理学	74	3.97	3.92	3.54	3.91	3.85	3.89	4.15	4.18	4.35	4.31
32 作業	57	4.07	4.07	3.74	3.91	3.82	3.95	4.25	4.26	4.42	4.28
33 言語	49	3.98	3.96	3.61	3.98	3.90	4.04	4.16	4.14	4.02	4.39
34 視能	24	4.25	4.08	4.00	4.04	4.04	4.13	4.33	4.42	4.54	4.58
41 臨検	64	4.13	4.17	3.97	4.03	4.02	4.23	4.38	4.47	4.55	4.56
42 放射	72	3.90	3.92	3.51	3.76	3.83	3.88	4.04	4.00	4.29	4.22
43 臨工	54	4.28	4.22	3.81	4.02	4.13	4.20	4.37	4.41	4.59	4.61
44 栄養	27	3.89	3.81	3.67	3.89	3.85	3.96	4.44	4.44	4.44	4.56
45 健体	76	4.17	4.22	3.92	4.38	3.92	4.07	4.24	4.28	4.37	4.54
51 経営	10	3.70	3.90	3.30	3.60	3.70	3.60	3.70	3.60	3.90	4.60
52 秘書	15	4.40	4.20	4.13	4.07	4.40	4.33	4.47	4.33	4.47	4.27
53 DS	25	4.24	4.12	3.64	4.08	4.48	4.08	4.32	4.24	4.36	4.64
54 デザ	11	4.27	4.00	3.00	3.36	3.73	3.91	4.00	4.09	4.09	4.27
総計	817	4.11	4.06	3.73	4.01	3.95	4.05	4.22	4.23	4.33	4.40

2-7 専門科目の授業形態別満足度（質問 8）

専門科目の満足度の平均値を授業形態別にみると、講義科目 4.22（昨年度 4.16）、演習科目 4.23（昨年度 4.20）、実習科目 4.33（昨年度 4.26）、卒業研究（ゼミナール）4.40（昨年度 4.35）と、全ての授業形態において昨年度より高い評価であった。

3. 自由記述

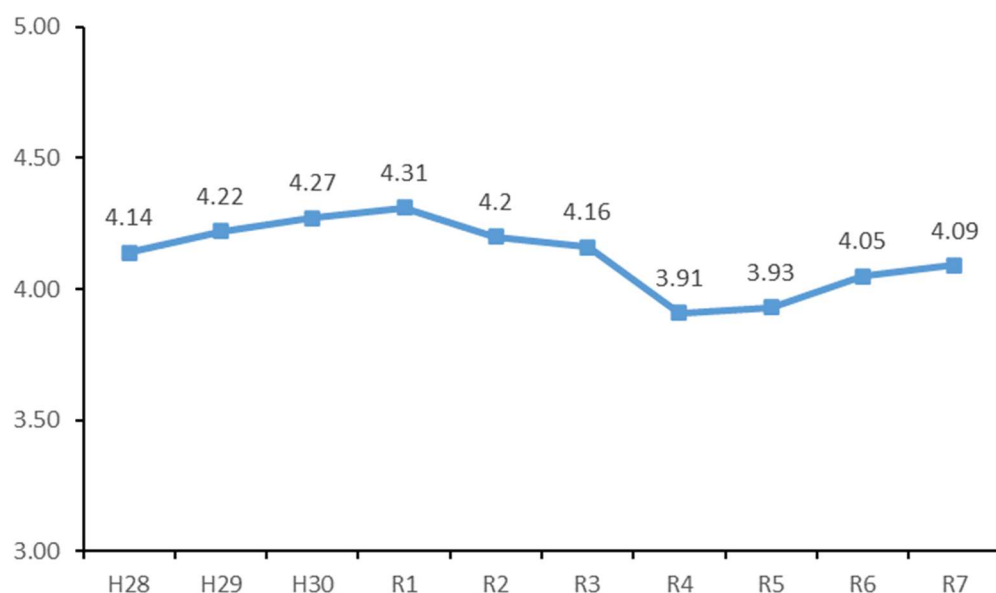
自由記述では、幅広い意見が寄せられた。授業面では、グループワークの少なさや教員間で指導方法や評価基準に差があることへの不満や、一部教員の対応・コミュニケーションに対する厳しい意見もあった。実習については、指導体制や連絡の遅さなどへの改善要望が多く寄せられた。そのほか、就職支援や奨学金制度の充実、印刷費負担や学習環境の改善を求める声もみられた。一方で、感謝や満足を示す意見もあり、大学全体への評価は概ね良好であるものの、教員対応の質の向上、学生支援体制の充実、より実践的で主体的な学習機会の拡充を求める声が目立った。

4. まとめ

今年度も、オンライン形式でアンケートを実施した。今年度は回収率が低かったため、回答呼びかけを積極的におこなう等により、回収率をまずは昨年並の95%以上まで上げることが望まれる。

教育全体に対する満足度の平均値は、今年度4.09となり、昨年度の4.05を上回るなど改善傾向を示している。一方で、4年前まで維持していた4.1以上の水準にはまだ回復していない。また、授業満足度については近年上昇傾向にあり、教育改善の成果がある程度あらわれていると考えられるため、今後も継続的な取組を進めていきたい。ディプロマ・ポリシーの達成度については、今年度初めて全ての項目で4.0以上となった。これらの達成度をさらに高めることが、教育全体に対する満足度向上にもつながると考えられる。今後も大学・学科が連携して継続的な改善を進めるとともに、教育全体の満足度や関連指標の経年変化を注視していく必要がある。

図1 教育全体に対する満足度の10年間の経年変化



2025年度 卒業生（4年次生）アンケート

本学では、在学中の教育について皆様の率直な感想を伺い、今後の教育改善に活かしていきたいと考えています。趣旨をご理解のうえ、以下の質問に回答をお願いいたします。本アンケートは匿名となっており、個人のプライバシーの侵害及びアンケートの目的以外の使用はいたしませんので、率直に回答してください。なお、所属学科、年次、回答の有無はシステム上で確認できるようにしていますが、アンケート回答の督促及び集計のためのみに使用しますのでご了承ください。

必須

質問1.卒業後の進路（希望を含む）

- ☐ 医療機関に就職
- ☐ 福祉施設に就職
- ☐ 医療・福祉系企業に就職
- ☐ 一般企業に就職
- ☐ 官公庁（公務員）に就職
- ☐ 大学院・その他教育機関に進学
- ☐ その他

必須

質問2.本学で受けた教育について、全体としてどの程度満足していますか。

満足していない  未回答 満足している

必須

質問3.本学では、大学の理念と教育理念のもと、以下の学習成果の獲得を教育目標としています。自身の達成状況について5段階で自己評価してください。

①幅広い教養、豊かな感性、人間理解、並びに国際的コミュニケーション能力を身につけるとともに、一人の人間として、他者と関わるための豊かな心を持ち、福祉社会の担い手と成り得るための体力を身につける。

達成できなかった  未回答 達成できた

必須

②豊かな人格形成の基本と専門領域へつなげる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探究する姿勢を身につける。

達成できなかった  未回答 達成できた

必須

③医療福祉という総合的な視点を持ち、学際的に議論する力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療と福祉の両分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。

達成できなかった  未回答 達成できた

必須

④4年間にわたる体系的な学習を通して、専門的な医療福祉人に必要な高いレベルの専門的学力や技術力、さらには、スペシャリストとしての指導力を身につける。

達成できなかった  未回答 達成できた

必須

質問4.在学中に受講した授業の内容は、全学的に整理され、まとまっていたか。

整理され、まとまっていなかった  未回答 整理され、まとまっていた

必須

質問5.在学中に受講した授業の担当教員は、全体的に受講生の様子をよく見ながら臨機応変に授業を進めていましたか。

進めていなかった  未回答 進めていた

必須

質問6.在学中に受講した授業は、全体的にシラバスの記載内容に沿って行われましたか。

行われなかった  未回答 行われた

必須

質問7.基礎教育科目についてお尋ねします。それぞれの分野について、どの程度満足していますか。

①医療福祉分野



必須

②教養分野



必須

③国際コミュニケーション分野



必須

④健康体育分野



必須

⑤情報分野



必須

⑥総合分野



必須

質問8.専門科目についてお尋ねします。それぞれの授業形態の科目について、どの程度満足していますか。

①講義科目



必須

②演習科目



必須

③実習科目



必須

④卒業研究（ゼミナール）



質問9.質問項目2～8のうち、「1」 または 「2」と回答された方は質問番号と以下にその理由をお書きください。（任意）

質問10.本学の教育に関して何かご意見がありましたら、自由にお書きください。（任意）

回答する

2025 年度 既卒生（2024 年度卒業生）アンケート報告書

川崎医療福祉大学

FD・SD 委員会

本学の卒業生が社会に出て、どのような就業状況にあるかを把握すると同時に、本学における学修を振り返り、それをどのように評価しているかを確認するために、卒業後 6 ヶ月経過後にアンケート調査を行っている。この調査は、2006 年度（平成 18 年度）より始まり、2018 年度（平成 30 年度）までは 3 年に一度の実施であったが（この間に 5 回実施）、2020 年度（令和 2 年度）からは、1. 実施方法の通り毎年実施している。

1. 実施方法

1-1 実施対象と方法

2024 年度の卒業生（以下、卒業生）は合計 941 名であった。そのうち、送達不能が 16 件で、計 925 名（前回 988 名）が今回の調査対象であった。本学同窓会から住所の提供を受け、アンケート依頼を郵送し、Google Forms を使用して、オンラインにて回答いただいた。質問項目は巻末の資料 1 の通りである。

1-2 実施日

2025 年 12 月 1 日（月）～2026 年 1 月 4 日（日）

2. 実施結果

2-1 回収率

アンケートの回答数は 134 件で、回収率は 14.49%であった。前回（14.37%）と比較するとやや増加した。

2-2 卒業時の状況と現在の状況（表 1-1）

卒業時の状況で、就職と回答した者は 128 名（95.52%）、進学と回答した者は 4 名（2.99%）、その他と回答した者は 2 名（1.49%）であった。卒業時に就職していた者のうち、「最初の就職先を変更せずに勤務」が 123 名（91.79%）と最も多く、「就職先を変更して勤務」は 4 名（2.99%）で、全体のうち現在就業している者は合計 127 名（94.78%）であった。また、「改めて教育を受けている」は 1 名（0.75%）、「現在は仕事に就いてない」が 0 名（0.00%）であった。

2-3 現在の勤務先の業種（表 1-2）

医療機関 93 名（73.23%、前回 69.85%）、福祉施設 15 名（11.81%、前回 12.50%）、一般企業（医療福祉系）4 名（3.15%、前回 1.47%）、一般企業 6 名（4.72%、前回 7.35%）、その他 6 名（4.72%、前回 5.15%）であった。

2-4 本学教育への満足度（表 1-3・4）

本学教育への満足度は平均 4.14（前回 4.11）だった。卒業学科別に見ると、4.5 以上の高評価を得たのは、医療福祉デザイン学科（5.00）、理学療法学科（4.69）、健康体育学科（4.50）であった。3.5 未満の低評価の学科はなかった。勤務先別にみると、4.5 以上の高評価を得たのは、一般企業（4.67）であった。唯一、一般企業（医療福祉系）のみが 3.75 と 4.0 を下回っていた。

2-5 本学のディプロマ・ポリシーの達成度（表 1-3・4）

本学の 4 つのディプロマ・ポリシーの達成度について、5 段階で評価してもらった結果、以下のとおりであった。

- ・ Q4-①「幅広い教養、豊かな感性、人間理解、並びに国際的コミュニケーション能力を身につけるとともに、一人の人間として、他者と関わるための豊かな心を持ち、福祉社会の担い手と成り得るための体力を身につける。」

平均 3.98（前回 3.96）であった。

- ・ Q4-②「豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探求する姿勢を身につける。」

平均 3.96（前回 3.96）であった。

- ・ Q4-③「医療福祉という総合的な視点を持ち、学際的に議論する力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療と福祉の両分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。」

平均 3.75（前回 3.73）であった。

- ・ Q4-④「4 年間にわたる体系的な学習を通して、専門的な医療福祉人に必要な高いレベルの専門的学力や技術力、さらには、スペシャリストとしての指導力を身につける。」

平均 3.66（前回 3.65）であった。

卒業学科別にディプロマ・ポリシー別に分析したところ、4.5 以上の高い評価を得た項目は、健康体育学科（①、②、③、④）と医療福祉デザイン学科（③、④）、作業療法学科（①）であった。また、3.0 未満の低い評価を得た項目は、臨床心理学科（④）、言語聴覚療法学科（③）、医療情報学科（①）であった。一方、勤務先別では、4.5 以上の高い評価、および、3.0 未満での低い評価がなかった。

2-6 本学学修の有用度（表 1-3・4）

本学学修の有用度は平均 4.25（前回 4.15）であった。卒業学科別に見ると、4.5 以上の高評価を得たのは、健康体育学科（5.00）、医療福祉デザイン学科（5.00）、視能療法学科（4.73）、作業療法学科（4.63）、理学療法学科（4.54）であった。3.0 未満の低評価の学科はなかった。

また、勤務先別でみると、全ての勤務先が 4.0 以上であった。

3. 自由記述

現在の業務をおこなう上で役に立っている授業や、学生のうちに学んでおくべき内容に関する記述が多かった。自由記述をまとめたものについては、別途保管する。

4. まとめ

アンケート回収率は昨年比約 0.1% 向上したが、目標である 20% には達しておらず、引き続き回収率の改善を図る必要がある。全体として、本学教育の満足度、ディプロマ・ポリシーの達成度、学修の有用度はいずれも昨年とほぼ同等であった。一方で、これらの指標について学科間の差が拡大しており、本学の課題として残されている。特にディプロマ・ポリシーの達成度は、満足度や有用度と比較して相対的に低く、早急な対応が求められる。また、勤務先別の分析では、医療機関・福祉施設・一般企業は概ね高い値を示した一方で、一般企業（医療福祉系）では全般的に低い傾向がみられた。今後も継続的に注視していく必要がある。

表 1

1. 卒業時の状況と現在の状況

	a 就職	a 継続	b 変更	c 就学	d 無職	b 進学	c その他	合計
a 福祉	7	7	0	0	0	0	0	7
b 心理	7	6	1	0	0	2	0	9
d 子ども	9	9	0	0	0	0	0	9
e 看護	13	13	0	0	0	0	0	13
f 理学	12	11	1	0	0	1	0	13
g 作業	8	8	0	0	0	0	0	8
h 言語	7	7	0	0	0	0	0	7
i 視能	11	10	1	0	0	0	0	11
j 臨検	8	8	0	0	0	0	1	9
k 放射	11	10	0	1	0	0	0	11
l 臨工	6	6	0	0	0	0	0	6
m 栄養	9	9	0	0	0	0	0	9
n 健体	3	3	0	0	0	1	0	4
q 経営	3	3	0	0	0	0	0	3
r 情報	6	6	0	0	0	0	1	7
s 秘書	6	6	0	0	0	0	0	6
t デザ	2	1	1	0	0	0	0	2
総計	128	123	4	1	0	4	2	134
割合	95.52%	91.79%	2.99%	0.75%	0.00%	2.99%	1.49%	100.00%

2. 現在の勤務先の業種

	医療機関	福祉施設	一般企業 (医療福祉系)	一般企業	その他	未回答	合計
a 福祉	2	4	0	0	1	0	7
b 心理	1	3	1	2	1	0	8
d 子ども	0	6	0	0	1	2	9
e 看護	11	0	0	0	1	0	12
f 理学	12	0	0	0	0	0	12
g 作業	8	0	0	0	0	0	8
h 言語	6	1	0	0	0	0	7
i 視能	10	0	1	0	0	0	11
j 臨検	6	0	1	0	0	1	8
k 放射	10	0	0	0	0	0	10
l 臨工	6	0	0	0	0	0	6
m 栄養	6	2	1	0	0	0	9
n 健体	0	0	0	1	2	0	3
q 経営	2	0	0	1	0	0	3
r 情報	5	0	0	1	0	0	6
s 秘書	6	0	0	0	0	0	6
t デザ	1	0	0	1	0	0	2
総計	92	16	4	6	6	3	127
割合	72.44%	12.60%	3.15%	4.72%	4.72%	2.36%	100.00%

3. 学科別の満足度・DP 達成度、有用度

	人数	満足度	DP				有用度
			①	②	③	④	
a 福祉	7	3.71	3.71	4.29	4.14	4.00	4.29
b 心理	9	4.33	3.56	3.67	3.11	2.78	3.89
d 子ども	9	4.22	4.22	4.11	3.67	3.78	4.44
e 看護	13	4.15	4.15	4.15	4.15	4.08	4.31
f 理学	13	4.69	4.38	4.23	4.00	3.92	4.54
g 作業	8	4.25	4.50	4.13	3.63	3.38	4.63
h 言語	7	3.43	4.00	3.14	2.86	3.00	3.57
i 視能	11	4.45	4.09	4.27	4.27	4.09	4.73
j 臨検	9	4.33	3.33	3.67	3.33	3.11	4.22
k 放射	11	3.91	4.09	3.91	3.91	3.73	4.09
l 臨工	6	3.67	4.33	3.83	4.00	3.67	4.17
m 栄養	9	3.56	3.78	3.56	3.56	3.67	3.78
n 健体	4	4.50	5.00	5.00	4.50	4.75	5.00
q 経営	3	4.33	4.33	4.00	3.67	3.67	4.33
r 情報	7	4.00	2.86	3.57	3.00	3.29	3.86
s 秘書	6	4.17	3.67	3.83	3.67	3.33	4.00
t デザ	2	5.00	3.50	4.00	5.00	5.00	5.00
総計	134	4.14	3.98	3.96	3.75	3.66	4.25

4. 勤務先別の満足度・DP 達成度、有用度

	人数	満足度	DP				有用度
			①	②	③	④	
a 医療機関	93	4.11	3.96	3.87	3.75	3.66	4.25
b 福祉施設	15	4.07	4.20	4.20	3.93	4.00	4.27
c 一般企業（医療福祉系）	4	3.75	4.00	4.00	4.00	3.50	4.00
d 一般企業	6	4.67	3.50	4.17	3.33	3.00	4.33
e その他	6	4.33	4.17	4.33	3.67	4.00	4.33
総計	124	4.13	3.98	3.95	3.76	3.68	4.25

2025年度 既卒生(2024年度卒業生)アンケート質問項目一覧

Q1【あなたの卒業学科】

医療福祉学部

a 医療福祉学科

b 臨床心理学科

c 保健看護学科

d 子ども医療福祉学科

保健看護学部

e 保健看護学科

リハビリテーション学部

f 理学療法学科

g 作業療法学科

h 言語聴覚療法学科

i 視能療法学科

医療技術学部

j 臨床検査学科

k 診療放射線技術学科

l 臨床工学科

m 臨床栄養学科

n 健康体育学科

o 感覚矯正学科

p リハビリテーション学科

医療福祉マネジメント学部

q 医療福祉経営学科

r 医療情報学科

s 医療秘書学科

t 医療福祉デザイン学科

Q2【現在の状況】

(1)卒業時の状況は以下のどれに該当しますか。

a 就職

b 進学

c その他

(2)(1)の質問でa就職を選択した方に伺います。以下のどれに該当しますか。

a 最初の就職先を変更せずに勤務

b 就職先を変更して勤務

c 改めて教育を受けている

d 現在は仕事に就いていない

(3)(2)の質問でa最初の就職先を変更せずに勤務、b就職先を変更して勤務を選択した方に伺います。現在お勤めの施設・企業の業種は以下のどれに該当しますか。

a 医療機関

b 福祉施設

c 一般企業(医療福祉系)

d 一般企業

e その他

Q3【本学で受けた教育について、全体としてどの程度満足していますか。】

a 大変満足

b まずまず満足

c どちらでもない

d やや不満足

e 大変不満足

Q4【本学が養成しようとする人材像は以下のとおりですが、身につけた能力をどのくらい職場で発揮できていますか。】

①「幅広い教養、豊かな感性、人間理解、並びに国際的コミュニケーション能力を身につけるとともに、一人の人間として、他者と関わるための豊かな心を持ち、福祉社会の担い手と成り得るための体力を身につける。」

a 十分発揮できている

b やや発揮できている

c どちらでもない

d あまり発揮できていない

e 全く発揮できていない

②「豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探究する姿勢を身につける。」

a 十分発揮できている

b やや発揮できている

c どちらでもない

d あまり発揮できていない

e 全く発揮できていない

③「医療福祉という総合的な視点を持ち、学際的に議論する力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療と福祉の両分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。」

a 十分発揮できている

b やや発揮できている

c どちらでもない

d あまり発揮できていない

e 全く発揮できていない

④「4年間にわたる体系的な学習を通して、専門的な医療福祉人に必要な高いレベルの専門的学力や技術力、さらには、スペシャリストとしての指導力を身につける。」

a 十分発揮できている

b やや発揮できている

c どちらでもない

d あまり発揮できていない

e 全く発揮できていない

Q5【本学での学修は、総合的に評価して職場で役に立っていますか。】

a 十分役に立っている

b どちらかというと役に立っている

c どちらでもない

d あまり役に立っていない

e 全く役に立っていない

Q6【本学の教育に関するご意見や在学生に対するメッセージ(身につけておくべき知識や技術、役に立った科目)などがございましたら、ご自由にお書きください。】


<https://forms.gle/NGMC4kLurF17yUUUn8>

回答締切：2026年1月4日(日)

2025 年度 就職先（2024 年度卒業生）アンケート報告書

川崎医療福祉大学

FD・SD 委員会

本学卒業生が社会に出て半年経過した時点で、卒業生を受け入れた就職先に対し、本学卒業生をどのように評価しているかを確認するためにアンケート調査を行っている。この調査は、2006 年度（平成 18 年度）より始まり、2018 年度（平成 30 年度）までは 3 年に一度の実施であったが（この間に 5 回実施）、2020 年度（令和 2 年度）からは、「1. 実施方法」の通り毎年実施している。アンケート内容については、2025 年度（令和 7 年度）より、「採用にあたり重視している項目」と「入職した学生が身につけている度合い」の項目を時代の変化にあわせて修正した。

1. 実施方法

1-1 実施対象と方法

2024 年度の卒業生の就職先としてアンケートを依頼した対象は 458 施設（企業）（前回 494 施設（企業））であり、送達不能が 3 件であった。本学就職課からの情報に基づきアンケート依頼を就職先へ郵送し、Google Forms を使用して、オンラインにて回答いただいた。質問項目は巻末の資料 1 の通りである。

1-2 実施日

2025 年 12 月 1 日（月）～2026 年 1 月 4 日（日）

2. 実施結果

2-1 回収率

アンケートの回答数は 176 件で、回収率は 38.68%であった。前回（35.02%）と比較するとやや増加した。

2-2 回答施設（企業）の業種（表 1-1）

回答のあった施設（企業）の業種は医療機関が 48.86%と最も多く、次いで福祉施設が 21.59%、一般企業が 13.07%、一般企業（医療福祉系）が 7.39%、その他が 9.09%であった。

2-3 2025 年 12 月 1 日時点、卒業生の人数（表 1-2）

回答のあった施設（企業）における本学卒業生の勤務者数は 1～5 人の割合が 57.39%と最も多く、次いで 11 人以上が 22.16%、6～10 人が 14.20%、0 人が 2.27%、不明が 3.98%であった。

2-4 2025 年 12 月 1 日時点、今年度入職した卒業生で、すでに退職した者の人数（表 1-3）

退職者数は、0 人が 73.30%と最も多く、次いで 1～5 人が 19.32%、6～10 人が 0.57%、不明が 6.82%であった。

2-5 採用にあたり重視している点（表 1-4）

採用の際、以下の各項目について、どの程度重視しているかについて、就職先に 5 段階で評価してもらった結果、以下のとおりであった。

- ・ Q4-①基礎学力と一般常識 平均 3.90 であった。
- ・ Q4-②専門知識と技術 平均 3.56 であった。
- ・ Q4-③学習・研鑽意欲 平均 4.19 であった。
- ・ Q4-④コミュニケーション能力・協調性 平均 4.66 であった。
- ・ Q4-⑤人間性・共感力 平均 4.53 であった。
- ・ Q4-⑥状況判断能力と自発的対応力 平均 4.05 であった。
- ・ Q4-⑦マナー・礼儀 平均 4.33 であった。
- ・ Q4-⑧職業的倫理観と責任感 平均 4.21 であった。
- ・ Q4-⑨リーダーシップ（協働的主導力） 平均 3.60 であった。
- ・ Q4-⑩ロイヤリティ（組織貢献意識） 平均 3.83 であった。
- ・ Q4-⑪自己管理能力 平均 4.02 であった。
- ・ Q4-⑫体力と持久力 平均 3.70 であった。
- ・ Q4-⑬精神的安定性とストレス対処力 平均 4.07 であった。

スキル別に 4.5 以上と特に重視された項目は、「④コミュニケーション能力・協調性」4.66 と「⑤人間性・共感力」4.53 であった。一方、3.5 未満の重視されない項目はなかった。

2-6 2025 年度に入職した卒業生のスキル度（表 1-5）

2-5 で示した各項目について、2025 年度に入職した卒業生がどの程度身につけているかについて、就職先に 5 段階で評価してもらった結果、以下のとおりであった。

- ・ Q5-①基礎学力と一般常識 平均 4.05 であった。
- ・ Q5-②専門知識と技術 平均 3.81 であった。
- ・ Q5-③学習・研鑽意欲 平均 3.99 であった。
- ・ Q5-④コミュニケーション能力・協調性 平均 4.11 であった。
- ・ Q5-⑤人間性・共感力 平均 4.10 であった。
- ・ Q5-⑥状況判断能力と自発的対応力 平均 3.63 であった。
- ・ Q5-⑦マナー・礼儀 平均 4.08 であった。
- ・ Q5-⑧職業的倫理観と責任感 平均 3.89 であった。
- ・ Q5-⑨リーダーシップ（協働的主導力）平均 3.29 であった。
- ・ Q5-⑩ロイヤリティ（組織貢献意識）平均 3.52 であった。
- ・ Q5-⑪自己管理能力 平均 3.70 であった。
- ・ Q5-⑫体力と持久力 平均 3.74 であった。
- ・ Q5-⑬精神的安定性とストレス対処力 平均 3.79 であった。

スキル別に 4.0 以上の評価を得た項目は、「④コミュニケーション能力・協調性」4.11、「⑤人間性・共感性」4.10、「⑦マナー・礼儀」4.08、「①基礎学力と一般常識」4.05 であった。一方、「⑨リーダーシップ（協働的主導力）」3.29 は唯一、3.5 未満の低い評価であった。

2-7 本学のディプロマ・ポリシーの達成度（表 1-6）

本学の 4 つのディプロマ・ポリシーの達成度について、就職先に 5 段階で評価してもらった結果、以下のとおりであった。

- ・ Q8-①「幅広い教養、豊かな感性、人間理解、並びに国際的コミュニケーション能力を身につけるとともに、一人の人間として、他者と関わるための豊かな心を持ち、福祉社会の担い手と成り得るための体力を身につける。」

平均 3.72（前回 3.87）であった。

- ・ Q8-②「豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探求する姿勢を身につける。」

平均 3.63（前回 3.83）であった。

- ・ Q8-③「医療福祉という総合的な視点を持ち、学際的に議論する力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療と福祉の両分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。」

平均 3.49（前回 3.54）であった。

- ・ Q8-④「4 年間にわたる体系的な学習を通して、専門的な医療福祉人に必要な高いレベルの専門的学力や技術力、さらには、スペシャリストとしての指導力を身につける。」

平均 3.44（前回 3.50）であった。

ディプロマ・ポリシー別、職種別に 4.0 以上の高い評価を得た項目はなく、また、3.0 未満の低い評価を受けた項目はなかった。

2-8 本学卒業生に対する施設（企業）の満足度（表 1-6、グラフ 1）

回答のあった施設（企業）のうち、本学卒業生に対する満足度は 5 段階評価で平均 4.17（前回 4.12）と比較的高かった。ほとんどの業種で平均 4.0 を超えていたが、唯一、一般企業（医療福祉系）が 4.0 を切っていた（3.83）。また、割合としても 85.38% の企業が、「大変満足」「まずまず満足」を選んでおり、概ね、本学の卒業生の評価は高いと考えられる。

また、満足度を目的変数とし、卒業生のスキル度 13 項目を説明変数として重回帰分析を行った結果、「③学習・研鑽意欲」および「④コミュニケーション能力・協調性」の 2 項目のみが統計的に有意な影響を示し、いずれも単相関で 0.6 以上、偏相関でも 0.27 以上と比較的高い関連が認められた。この結果から、施設（企業）の満足度は知識・技能そのものよりも、主体的に学び続ける姿勢や他者と円滑に協働する力といった非認知的能力により、規定されている可能性が示された。

2-9 (1) リスキリング（職業能力の再開発・再教育）の必要性（表 1-7）

回答のあった施設（企業）のうち、職員・従業員のリスキリング（職業能力の再開発・再教育）が必要だと考えると回答した割合は 58.52%、考えないと回答した割合は 41.48%であった。業種により認識が異なっており、一般企業（医療福祉系）では 69.23%、その他では 68.75%が必要と考えているが、福祉施設で必要と考えているのは、52.63%であった。

2-9 (2) 仮に本学にリスキリングに資する教育プログラムの開講を依頼する場合、希望する内容

別途保管する。

3. 自由記述

高評価や期待を述べる施設・企業が多かった。自由記述をまとめたものについては、別途保管する。

4. まとめ

アンケートに回答いただいた全 176 施設のうち約 20%の企業・施設で 1 年未満の離職者があったことから、採用の際の学生と施設とのマッチングについてより詳細な検討が必要と感じられた。

次に、採用にあたり重視している点については、本学が養成しようとする人材像にもある「コミュニケーション能力・協調性」「人間性・共感性」が、就職先においても強く求められており、全体では 4.5 以上の値であった。項目別の本学の卒業生が身につけている程度については、5 段階評価の平均で、「コミュニケーション能力・協調性」4.11「人間性・共感性」4.10 と他項目と比べて高い評価であり、求められている人物像との本学の教育方針の整合性が、ある程度、とれていると考えられるが、さらにこれらの能力をを上げるべく工夫をすすめたいと考える。

就職先の総合的な評価は、おおむね満足との回答を得られたが、やや不満足、大変不満足、の回答があった 8.20%に対して、今後何らかの対策を講じる必要があると考える。重回帰分析により、施設（企業）の満足度は知識・技能そのものよりも、主体的に学び続ける姿勢や他者と円滑に協働する力により、規定されている可能性が示された。多様な学生の特徴を見極め、個々の学生の足りないところを補いつつ、強みをしっかりと伸ばしていけるよう、教育や就職支援について連携した取り組みが必要であろう。

表 1

1. 業種別割合

	件数	割合
a 医療機関	86	48.86%
b 福祉施設	38	21.59%
c 一般企業（医療福祉系）	13	7.39%
d 一般企業	23	13.07%
e その他	16	9.09%
総計	176	100.00%

2. 勤務者数

	a 0人	b 1~5人	c 6~10人	d 11人以上	e 不明	総計
a 医療機関		49	11	21	5	86
b 福祉施設	1	24	6	7		38
c 一般企業（医療福祉系）	2	7	1	3		13
d 一般企業		15	5	3		23
e その他	1	6	2	5	2	16
総計	4	101	25	39	7	176
割合	2.27%	57.39%	14.20%	22.16%	3.98%	100.00%

3. 今年度入職した卒業生の退職者数

	a 0人	b 1~5人	c 6~10人	d 11人以上	e 不明	総計
a 医療機関	61	20			5	86
b 福祉施設	29	7			2	38
c 一般企業（医療福祉系）	10	1	1		1	13
d 一般企業	18	4			1	23
e その他	11	2			3	16
総計	129	34	1	0	12	176
割合	73.30%	19.32%	0.57%	0.00%	6.82%	100.00%

4. 採用に当たり重視している点

	①基礎学力と一般常識	②専門知識と技術	③学習・研鑽意欲	④コミュニケーション能力・協調性	⑤人間性・共感力
a 医療機関	4.01	3.84	4.23	4.60	4.48
b 福祉施設	3.82	3.66	4.16	4.68	4.55
c 一般企業（医療福祉系）	3.92	3.08	4.31	4.54	4.54
d 一般企業	3.61	2.57	4.22	4.87	4.65
e その他	3.94	3.69	3.94	4.75	4.63
総計	3.90	3.56	4.19	4.66	4.53
	⑥状況判断能力と自発的対応力	⑦マナー・礼儀	⑧職業的倫理観と責任感	⑨リーダーシップ（協働の主導力）	⑩ロイヤリティ（組織の貢献意識）
a 医療機関	4.01	4.34	4.19	3.69	3.83
b 福祉施設	4.11	4.34	4.26	3.61	3.87
c 一般企業（医療福祉系）	4.00	4.23	4.31	3.62	3.92
d 一般企業	4.09	4.39	4.13	3.35	3.70
e その他	4.13	4.25	4.25	3.44	3.88
総計	4.05	4.33	4.21	3.60	3.83
	⑪自己管理能力	⑫体力と持久力	⑬精神的安定性とストレス対処力		
a 医療機関	4.05	3.83	4.06		
b 福祉施設	3.95	3.61	4.11		
c 一般企業（医療福祉系）	4.00	3.69	4.15		
d 一般企業	3.96	3.43	4.04		
e その他	4.13	3.63	4.00		
総計	4.02	3.70	4.07		

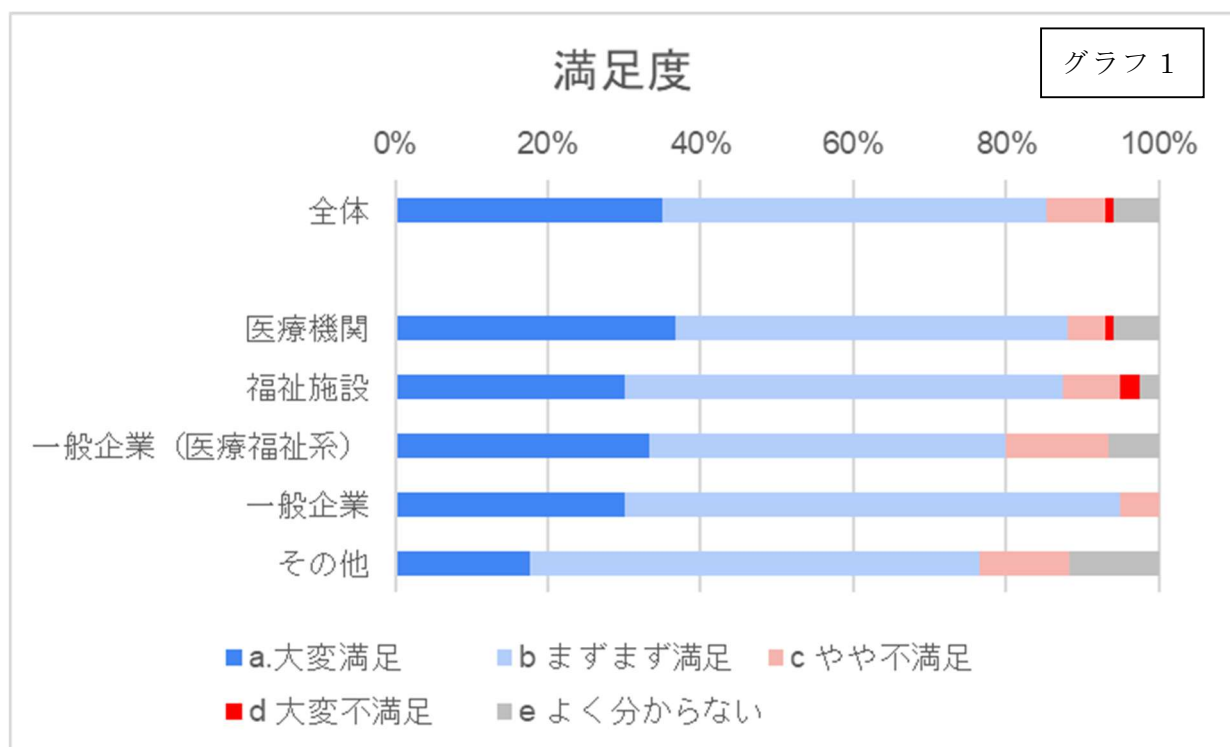
5. 卒業生の身につけている程度

	①基礎学力と一般常識	②専門知識と技術	③学習・研鑽意欲	④コミュニケーション能力・協調性	⑤人間性・共感力
a 医療機関	4.09	3.91	3.94	4.07	4.05
b 福祉施設	4.06	3.81	4.06	4.03	4.11
c 一般企業（医療福祉系）	4.08	3.92	4.08	3.85	3.92
d 一般企業	3.96	3.35	3.91	4.48	4.30
e その他	3.93	3.86	4.14	4.14	4.21
総計	4.05	3.81	3.99	4.11	4.10
	⑥状況判断能力と自発的対応力	⑦マナー・礼儀	⑧職業的倫理観と責任感	⑨リーダーシップ（協働の主導力）	⑩ロイヤリティ（組織の貢献意識）
a 医療機関	3.65	4.09	3.96	3.37	3.52
b 福祉施設	3.61	4.03	3.81	3.11	3.50
c 一般企業（医療福祉系）	3.54	4.08	3.92	3.15	3.31
d 一般企業	3.65	4.17	3.83	3.30	3.52
e その他	3.64	4.00	3.79	3.43	3.79
総計	3.63	4.08	3.89	3.29	3.52
	⑪自己管理能力	⑫体力と持久力	⑬精神的安定性とストレス対処力		
a 医療機関	3.77	3.77	3.79		
b 福祉施設	3.56	3.50	3.69		
c 一般企業（医療福祉系）	3.54	3.77	3.83		
d 一般企業	3.70	3.96	4.00		
e その他	3.79	3.86	3.64		
総計	3.70	3.74	3.79		

6. 7.ディプロマ・ポリシー達成度および満足度

	DP達成度				満足度
	①	②	③	④	
a 医療機関	3.69	3.65	3.62	3.58	4.21
b 福祉施設	3.63	3.58	3.53	3.42	4.16
c 一般企業（医療福祉系）	3.92	3.77	3.54	3.54	3.83
d 一般企業	3.83	3.48	2.96	2.87	4.35
e その他	3.75	3.69	3.44	3.44	4.00
総計	3.72	3.63	3.49	3.44	4.17

7. 満足度



8 (1) . リスキリングの必要性

	a はい	b いいえ
a 医療機関	56.98%	43.02%
b 福祉施設	52.63%	47.37%
c 一般企業（医療福祉系）	69.23%	30.77%
d 一般企業	60.87%	39.13%
e その他	68.75%	31.25%
総計	58.52%	41.48%

2025年度 就職先(2024年度卒業生)アンケート質問項目一覧

Q1【貴施設・貴社の業種をお教えてください。】

- a 医療機関 b 福祉施設 c 一般企業(医療福祉系) d 一般企業 e その他

Q2【2025年12月1日現在、貴施設・貴社には本学の卒業生が何人程度勤務していますか。】

- a 0人 b 1～5人 c 6～10人 d 11人以上 e 不明

Q3【2025年12月1日現在、今年度貴施設・貴社に入職した本学の卒業生について退職者の人数をわかる範囲でa～eでお答えください。退職者がいない場合はa 0人を選択してください。】

- a 0人 b 1～5人 c 6～10人 d 11人以上 e 不明

Q4【採用にあたり次の項目についてどの程度重視していますか。a～eの5段階でお答えください。】

- a 非常に重視している b 重視している c どちらともいえない d あまり重視していない e 重視していない
- ① 基礎学力と一般常識 ② 専門知識と技術 ③ 学習・研鑽意欲 ④ コミュニケーション能力・協調性 ⑤ 人間性・共感性
⑥ 状況判断能力と自発的対応力 ⑦ マナー・礼儀 ⑧ 職業的倫理観と責任感 ⑨ リーダーシップ(協働的主導力) ⑩ ロイヤリティ(組織貢献意識)
⑪ 自己管理能力 ⑫ 体力と持久力 ⑬ 精神的安定性とストレス対処力

Q5【2025年度に入職した本学の卒業生は次の項目についてどの程度身につけていると思いますか。a～eの5段階でお答えください。】

- a 十分身につけている b やや身につけている c どちらともいえない d あまり身につけていない e 全く身につけていない
- ① 基礎学力と一般常識 ② 専門知識と技術 ③ 学習・研鑽意欲 ④ コミュニケーション能力・協調性 ⑤ 人間性・共感性
⑥ 状況判断能力と自発的対応力 ⑦ マナー・礼儀 ⑧ 職業的倫理観と責任感 ⑨ リーダーシップ(協働的主導力) ⑩ ロイヤリティ(組織貢献意識)
⑪ 自己管理能力 ⑫ 体力と持久力 ⑬ 精神的安定性とストレス対処力

Q6【本学が養成しようとする人材像は以下のとおりですが、2025年度に入職した本学の卒業生は、①～④それぞれの能力をどのくらい職場で発揮できていますか。a～eの5段階でお答えください。】

- a 十分発揮できている b やや発揮できている c どちらともいえない d やや発揮できていない e 全く発揮できていない
- ①「幅広い教養、豊かな感性、人間理解、並びに国際的コミュニケーション能力を身につけるとともに、一人の人間として、他者と関わるための豊かな心を持ち、福祉社会の担い手と成り得るための体力を身につける。」
②「豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探究する姿勢を身につける。」
③「医療福祉という総合的な視点を持ち、学際的に議論する力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療と福祉の両分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。」
④「4年間にわたる体系的な学習を通して、専門的な医療福祉人に必要な高いレベルの専門的学力や技術力、さらには、スペシャリストとしての指導力を身につける。」

Q7【2025年度に入職した本学の卒業生を総合的に評価して、どの程度満足されていますか。a～eの5段階でお答えください。】

- a 大変満足 b まずまづ満足 c やや不満足 d 大変不満足 e よく分からない

Q8【リスクリング(職業能力の再開発・再教育)についてお答えください。(1)でaはいと回答された場合のみ、(2)について回答してください。】

(1)貴施設・貴社では、職員・従業員のリスクリングが必要だと考えていますか。

- a はい b いいえ

(2)本学は、医療、福祉、医療福祉、教育、情報、医療福祉経営などの分野の教育を行っています。仮に、貴施設・貴社の職員・従業員を対象として本学にリスクリングに資する教育プログラムの開講を依頼するとしたら、どのような内容(分野・具体的な資格など)を希望されますか。ご自由にお書きください。

Q9【本学の卒業生に対して何かご意見等がございましたら、ご自由にお書きください。】


<https://forms.gle/pCMuUu71mbYnJT6e8>

回答締切: 2026年1月4日(日)

2025 年度 学修成果及び学修行動、環境に関する調査報告書

川崎医療福祉大学

FD・SD 委員会

本学の学生の学修前後の学修成果を把握し、本学の 3 つのポリシーを検証する材料とすることを目的として、2022 年度より毎年実施する記名式調査として「学修成果および学修行動、環境に関する調査」を開始した。

データの集計と基礎的分析については、FD・SD副委員長及び調査企画室で行った。

1. 実施方法

1-1 実施対象と方法

2025 年度の在学している学部生（以下、在学生）は合計 3,415 名であった。

在学生にメールにて回答依頼を行い、WebClass を使用して、オンラインにて実施した。質問項目および簡易集計結果は巻末の資料 1 の通りである。

1-2 実施日

提出期限：2025 年 7 月 14 日（月）～7 月 31 日（木）

2. 実施結果

2-1 回収率

回答者数は 1,941 人で、回収率は 56.8%（2024 年度：38.6%）であった。学年別のデータは以下の通りであった。今年度は、昨年度と比較して大幅に回収率が上がった。

学年別回答者数：1 年次 592 人、2 年次 392 人、3 年次 504 人、4 年次 453 人

学年別回収率：1 年次 72.6%、2 年次 49.4%、3 年次 59.3%、4 年次 47.3%

2-2 学生の主観評価によるアドミッション・ポリシーの検証（質問 1）

アドミッション・ポリシーについて、入学時においては、本学への入学選抜に臨むにあたっての人物像を、入学後については、本学での学びに対する基本姿勢として持つ必要があるものであり、いずれの設問においてレベル 4 もしくは 5 であることが望まれる項目である。実際の回答もレベル 4 と 5 での回答を占めているが、ごく少数の学生は低いレベルで回答している。アドミッション・ポリシーに関する設問に全てレベル 1 で回答した学生が昨年度は 3 名存在したが、今年度も 2 名存在した。学生のアドミッション・ポリシーへの理解と医療福祉人への意識付けを今以上に強化していく必要がある。

全てのアドミッション・ポリシーにおいて、レベル5の回答が一番多くなっていた。

「⑤他の医療福祉人と連携して働くために、チームワークの能力を備えている人」について、一昨年、昨年はレベルを4と回答した学生が最も多かったが、他者とのコミュニケーション、協業についての不安が若干改善されたことが示された。とはいえ、他の項目では、レベル5の割合が5割を超えているが、この項目だけは4割程度であった。引き続き、アクティブラーニング科目やチーム医療に関する科目、プレゼンテーションに関する科目など、コミュニケーション能力およびチーム医療に関する科目をより一層強化する必要性が示唆された。

学年別の傾向においては、全ての項目で1年生が最もレベル5の回答の割合が高かった。また、1年生においては比較的レベル3の回答が少ない傾向が見られた。加えて、2年生と3年生において、レベル5の割合が低い傾向が見られた。

2-3 学生の主観評価によるカリキュラム・ポリシーの検証（質問2、3、5）

質問2で自分の所属学科のカリキュラム（科目や科目の配置、科目の量）への満足度を確認したところ、満足が39.6%、やや満足が42.4%と合せて82.0%であり、昨年度と同様、概ね満足している状況が確認された。質問3のカリキュラムへの要望事項は、昨年度と同様、資格対策の充実と、ボランティア活動などの正課外活動への単位認定への要望が多く見受けられた。

質問5の科目の配置については、1週間当たり21～30時間（1日当たり概ね3～4コマ）の授業がある学生が35.1%と最も多くなっていた。これは令和4年度に文部科学省が実施した「全国学生調査」※において、2年生の最多回答であった「1週間当たり16～20時間（1日あたり概ね2～3コマ）」と比較すると、多くの科目が配置されていたが、同調査における学部分野別の回答における保健分野（看護・医療技術など）においては1週間当たり21～30時間（1日当たり概ね3～4コマ）が最多になっていたため、この分野においては標準的な科目配置であると考えられる。

2-4 学生の主観評価によるディプロマ・ポリシーの検証（質問4、6、7、8）

質問4で最も高かった項目が「4. 出された課題やレポートを、良いものに仕上げようと努力している」52.4%であった。次に、「7. 授業でわからなかったことは、自分で調べてみる」38.4%、「2. 興味がわくかどうかにかかわらず、集中して受講している」34.1%と続いており、与えられた学びについては一生懸命に取り組む様子が示唆された。ただし、「2. 興味がわくかどうかにかかわらず、集中して受講している」が昨年の41%から約7%減少しており、昨年までと比べて興味がわかない講義に対するモチベーションは下がっているようである。一方、「5. 予習をしたうえで毎回の授業に臨んでいる」が5.0%、「授業に関係する事柄を、授業時間外でも教員に質問する」8.4%、「授業で興味を持ったことについて、自主的に勉強する」19.6%などの低い割合で示され

るように、学生の学修姿勢が受け身になっている傾向が見受けられた。後述の質問 6 と同様、課題とすべきであろう。

質問 6 は授業以外での自己学修時間を問うた質問であるが、時間数としては最も少ない選択肢である 1 週間当たり 1～5 時間の学生が 33.1%と最多となった。「全国学生調査」※において、全体でも学部分野別でも同様に 1 週間当たり 1～5 時間の学生が最も多くを占めており、他大学においても同様の課題が存在するものと考えられる。

質問 7 では、68.3%の学生が毎週 16 時間以上の自身が自由に使える時間があり、今以上の自己学修時間の確保は可能と考えられる。単位制度の実質化を図る上でも学生の自己学修時間増加に向けて更なる大学内学修環境の整備や、予習・復習教材の指示、提供等の改善に向けた施策が必要である。

質問 8 では、ディプロマ・ポリシーに定められた養成人材像に対する現時点での自身の達成状況について 5 段階で自己評価させた。全てのディプロマ・ポリシーについて、レベル 4 と回答した学生が最も多い状況ではあるが、元来ディプロマ・ポリシーは卒業時に充足を目指すものであるため、仕方ない側面もある。学年別の傾向では、4 年生でレベル 5 が増えて、レベル 3 が減っており、望ましい傾向ではある。とはいえ、できれば 4 年生ではもう少しレベル 5 が増え、レベル 3 以下が減ることが望ましい。学修ポートフォリオシステムおよびディプロマ・サプリメントの活用を啓発し、成長実感を持たせるなど、学生の主体性向上に向けた取り組みが必要であろう。

2-5 学生からの環境整備への要望事項（質問 9、10、11）

質問 9 では、学生が自己学修する場所を確認した。自宅での自己学修を中心としながらも、大学図書館や各階ラウンジなどの大学内施設の利用が多く見受けられた。また、質問 10 および 11 の施設整備の要望では、静かに学修できるスペースの更なる拡充を望む声が最多数となった。本学には、静かに学修できるスペースである 5FLSC（ラーニングサポートセンター）や 8F 資格対策演習室があり、席数にも余裕があるのだが、質問 9 で示されたように実際に使う学生が少ない。これらのスペースの案内を十分に行うことの重要性が示されたと同時に、利便性の高い場所での学修スペースの確保の必要性が示唆された。

また、施設整備の要望では、Wi-Fi 環境の充実、現在よりも遅い時間まで自習で利用することができるスペースの整備、コーヒーショップ等のカフェスペースの設置、学生ラウンジ等のフリースペースの拡充が昨年同様、根強い要望として挙げられている。

自由記述では空調に関する要望が多数見受けられ、多くの学生が不満を持っていることが分かる。4F ラウンジ・各階ラウンジや、個々の教室の室温調整が十分ではないなど、温度や稼働時間に関して改善を求める声が多く挙げられた。学生の不満が最も多い内容であることを認識しておかなくてはならない。近年の気温の上昇等も踏まえ、

他には、コピー機や印刷機、学生食堂の利便性の向上や料金の見直しについての意見等が挙げた。

[illegible]

今年度も本調査を通じて、本学の 3 つのポリシーに関する教学の PDCA サイクルを回すための貴重なデータを収集することができた。特に、大学教育の受益者である学生の主観的な視点から、3 つのポリシーに対する認識や達成度を定量的に把握する機会を定期的に設けられたことは、本学の教育活動の改善に大きく貢献すると考えられる。

シラバスの内容整理や教員の意識改革により、教学の改善は順調に進んでいると考えられるが、チーム医療の実現を目指した医療福祉人としての能力を養う科目の充実や、単位制度の実質化に向けた更なる取り組みが必要である。さらに、空調の整備や自習スペースの確保に加え、学内のネットワーク環境の充実や、学生食堂の多面的な整備など、快適で自主的な学びを促進する環境や施設の拡充も重要な課題になっている。

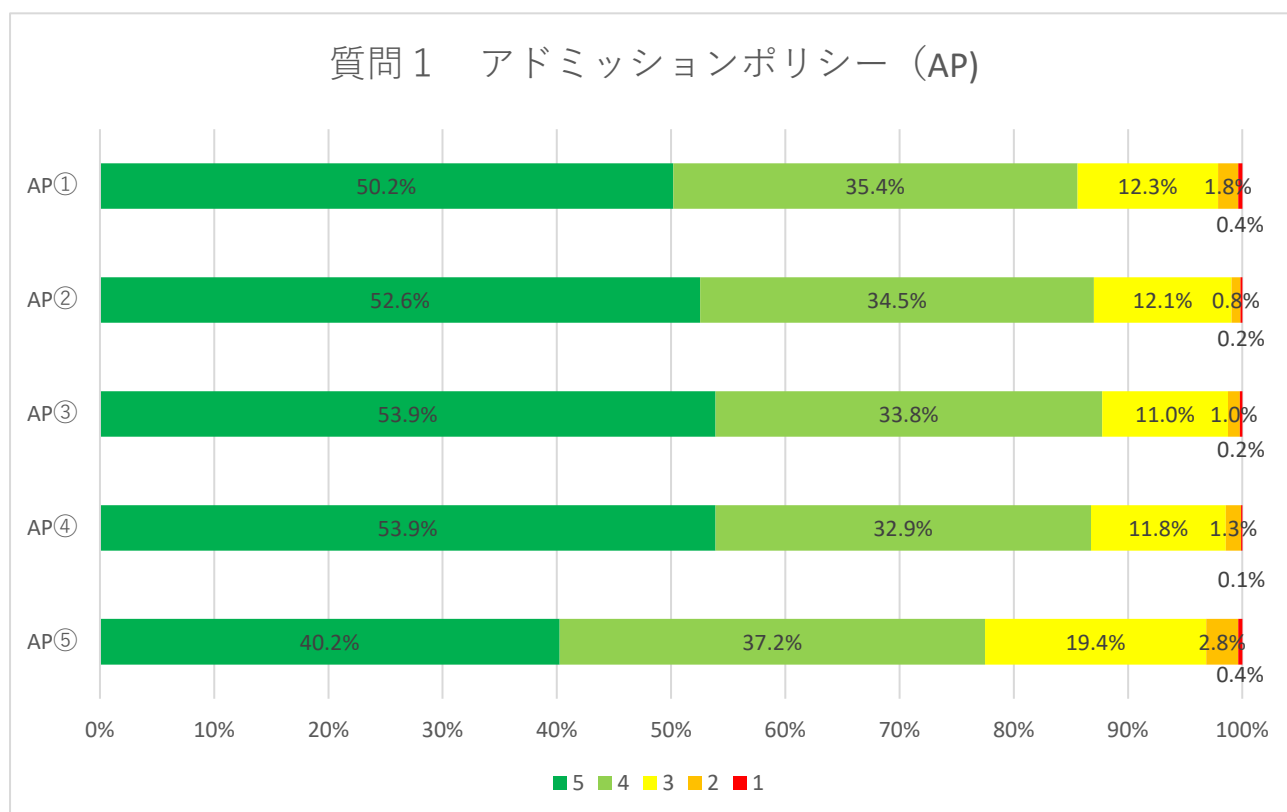
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/chousa/1421136.htm

50

質問 1. 川崎医療福祉大学では以下の学生を入学者として求めていると同時に、大学が養成しようとしている人材の基本姿勢として定めています（アドミッション・ポリシー）。あなたの現時点での学びへの姿勢について 5 段階で自己評価してください。

- ① 医療や福祉の分野で活躍するために、その知識と技術を修得する意欲のある人
- ② 病気や障がいのある人の気持ちを理解するとともに、その苦悩に共感できる人
- ③ 社会人としての良識や倫理観を身につけ、社会に貢献したいと願っている人
- ④ 他者の言葉に耳を傾け、適切に説明できるというコミュニケーション能力を持つために努力する人
- ⑤ 他の医療福祉人と連携して働くために、チームワークの能力を備えている人

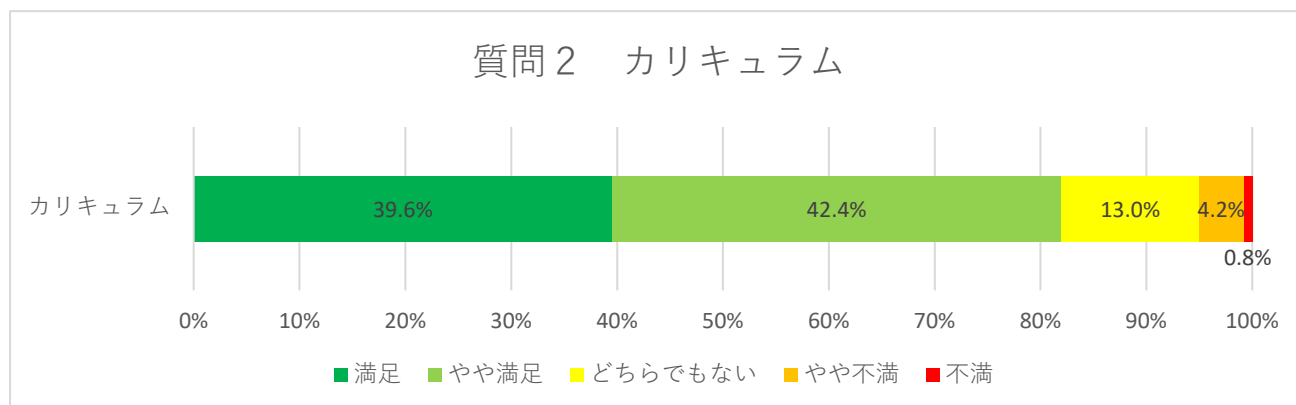
※レベル 5 が最もポジティブで、レベル 1 が最もネガティブな自己評価を示す



学年別の傾向（AP）

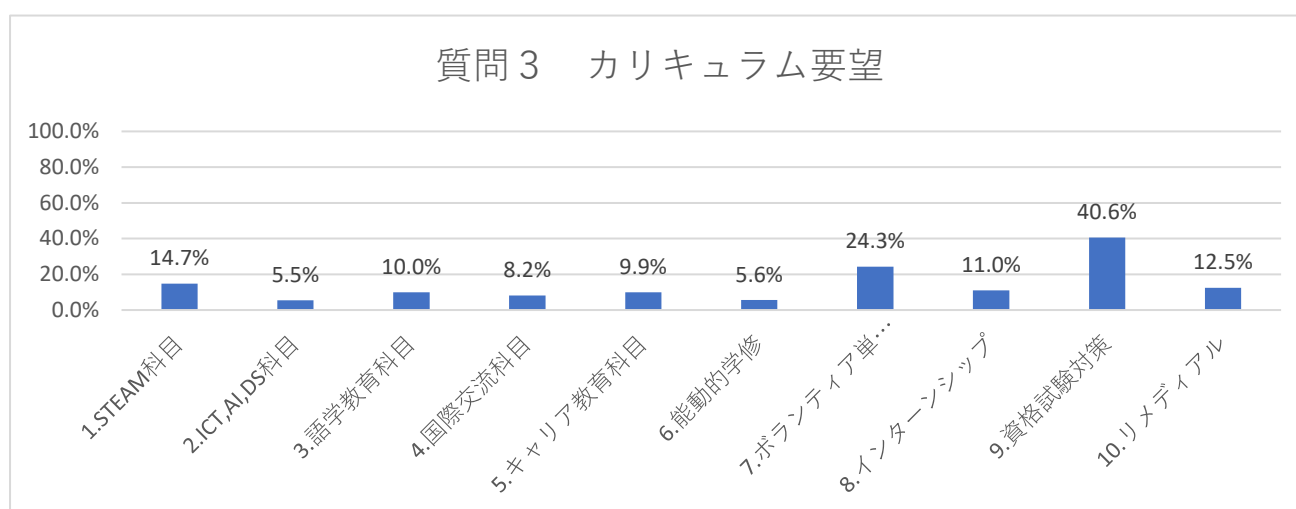
	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
AP①総計	50.2%	35.4%	12.3%	1.8%	0.4%
4	51.2%	33.8%	11.9%	2.0%	1.1%
3	43.3%	39.7%	14.5%	2.4%	0.2%
2	47.2%	36.0%	14.3%	2.6%	0.0%
1	57.3%	32.6%	9.5%	0.5%	0.2%
AP②総計	52.6%	34.5%	12.1%	0.8%	0.2%
4	51.4%	34.7%	13.2%	0.4%	0.2%
3	46.0%	39.1%	13.3%	1.4%	0.2%
2	51.5%	32.9%	14.8%	0.8%	0.0%
1	59.6%	31.4%	8.3%	0.5%	0.2%
AP③総計	53.9%	33.8%	11.0%	1.0%	0.2%
4	53.6%	33.8%	11.3%	1.1%	0.2%
3	49.4%	36.5%	12.5%	1.2%	0.4%
2	51.3%	34.2%	13.3%	1.3%	0.0%
1	59.6%	31.4%	8.1%	0.7%	0.2%
AP④総計	53.9%	32.9%	11.8%	1.3%	0.1%
4	54.7%	34.2%	9.7%	1.3%	0.0%
3	51.6%	33.7%	12.5%	2.0%	0.2%
2	49.0%	33.4%	16.1%	1.5%	0.0%
1	58.4%	30.7%	10.0%	0.7%	0.2%
問1AP⑤	40.2%	37.2%	19.4%	2.8%	0.4%
4	42.4%	37.3%	17.7%	2.4%	0.2%
3	38.9%	37.9%	19.2%	3.2%	0.8%
2	36.2%	38.0%	23.0%	2.8%	0.0%
1	42.4%	36.1%	18.4%	2.7%	0.3%

質問2. 自分の所属学科のカリキュラム（科目や科目の配置、科目の量）に満足していますか。



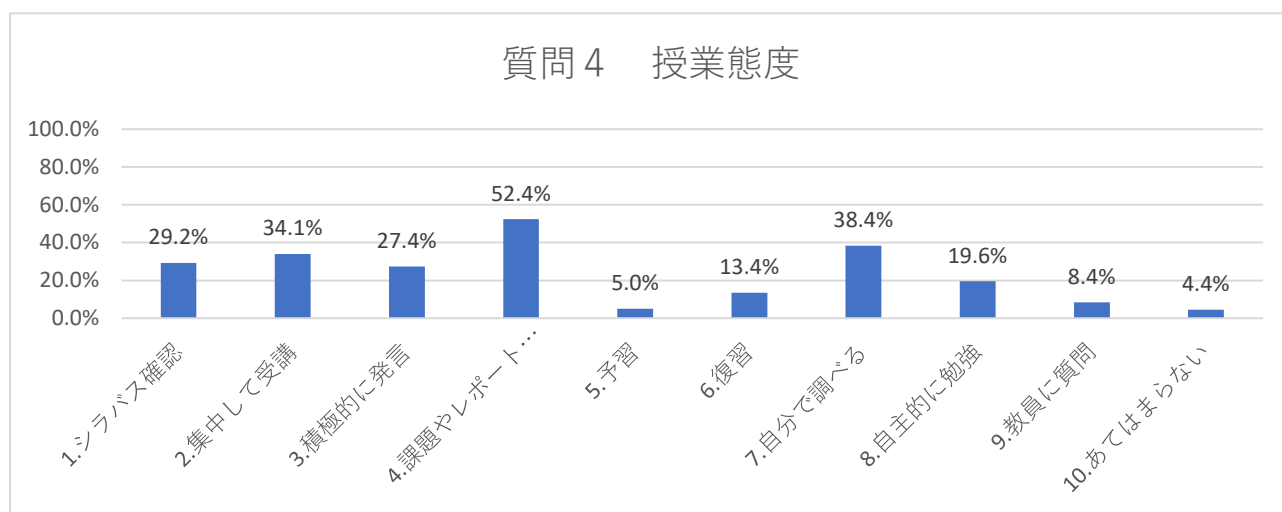
質問3. カリキュラムに対して要望はありますか。あてはまるものすべてを選択してください。

1. 基礎教育科目へのSTEAM科目（科学／技術／工学／芸術／数学）の充実
2. ICT・AI・数理・データサイエンス科目の充実
3. 基礎教育科目への語学教育科目の充実
4. 短期留学を含む国際交流科目の充実
5. キャリア教育科目の充実
6. 能動的学修授業（アクティブラーニング）の充実
7. 学外活動（ボランティア等）単位認定
8. インターシップの単位認定、科目設定
9. 資格試験対策の充実
10. リメディアル教育（不足している基礎学力を補うために行われる教育）の充実



質問4. 授業に対して、どのような態度で取り組んでいますか。あてはまるものすべてを選択してください。

1. 受講の際に、前もってシラバスを確認している
2. 興味がわくかどうかにかかわらず、集中して受講している
3. グループワークやディスカッションなど自分の意見を述べる機会がある場合は、積極的に発言している
4. 出された課題やレポートを、良いものに仕上げようと努力している
5. 予習をしたうえで毎回の授業に臨んでいる
6. 授業が終わったらそのつど復習している
7. 授業でわからなかったことは、自分で調べる
8. 授業で興味をもったことについて、自主的に勉強する
9. 授業に関係する事柄を、授業時間外でも教員に質問する
10. 上記にあてはまるものはない



質問5. 授業の受講時間※は、1週間（7日間）でどれくらいですか。※単位化された全ての授業。講義、演習、実験、卒業研究、実習、学外実習等の正課授業。

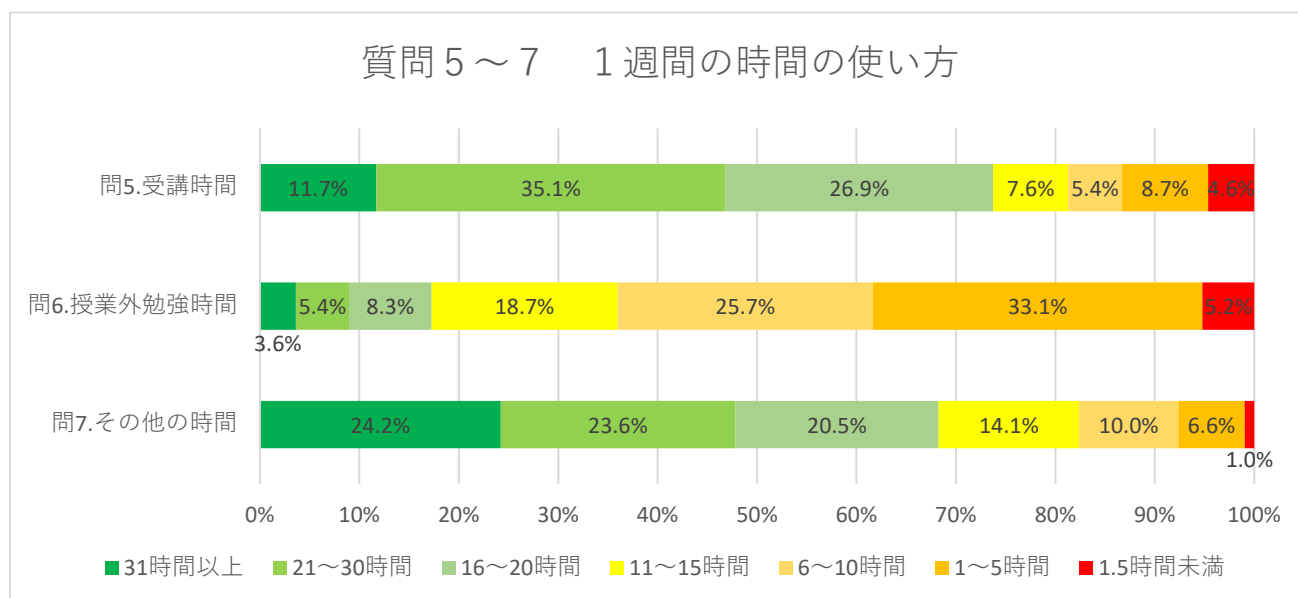
1. 31時間以上（月1時限～金3時限まで殆どの全てのコマで授業が有る）
2. 21～30時間（1日当たり概ね3～4コマの授業が有る）
3. 16～20時間（1日当たり概ね2～3コマの授業が有る）
4. 11～15時間（1日当たり概ね1～2コマの授業が有る）
5. 6～10時間（1日当たり概ね1コマの授業が有る）
6. 1～5時間（1週間のうち授業が無い日が3日以上有る）
7. 1.5時間未満（1週間のうち殆どの日が授業が無い）

質問 6. 授業時間以外でのふだんの自己学修時間は、1 週間（7 日間）でどれくらいですか。（定期試験用の自己学修ではなく、ふだんの自己学修についてお答えください。）

1. 31 時間以上（毎日概ね 4.4 時間以上を自己学修に充てている）
2. 21～30 時間（毎日概ね 3～4.3 時間未満を自己学修に充てている）
3. 16～20 時間（毎日概ね 2.3～2.9 時間未満を自己学修に充てている）
4. 11～15 時間（毎日概ね 1.6～2.2 時間未満を自己学修に充てている）
5. 6～10 時間（毎日概ね 50 分～1.5 時間未満を自己学修に充てている）
6. 1～5 時間（毎日概ね 10 分～45 分未満を自己学修に充てている）
7. 0 時間（全くしない）

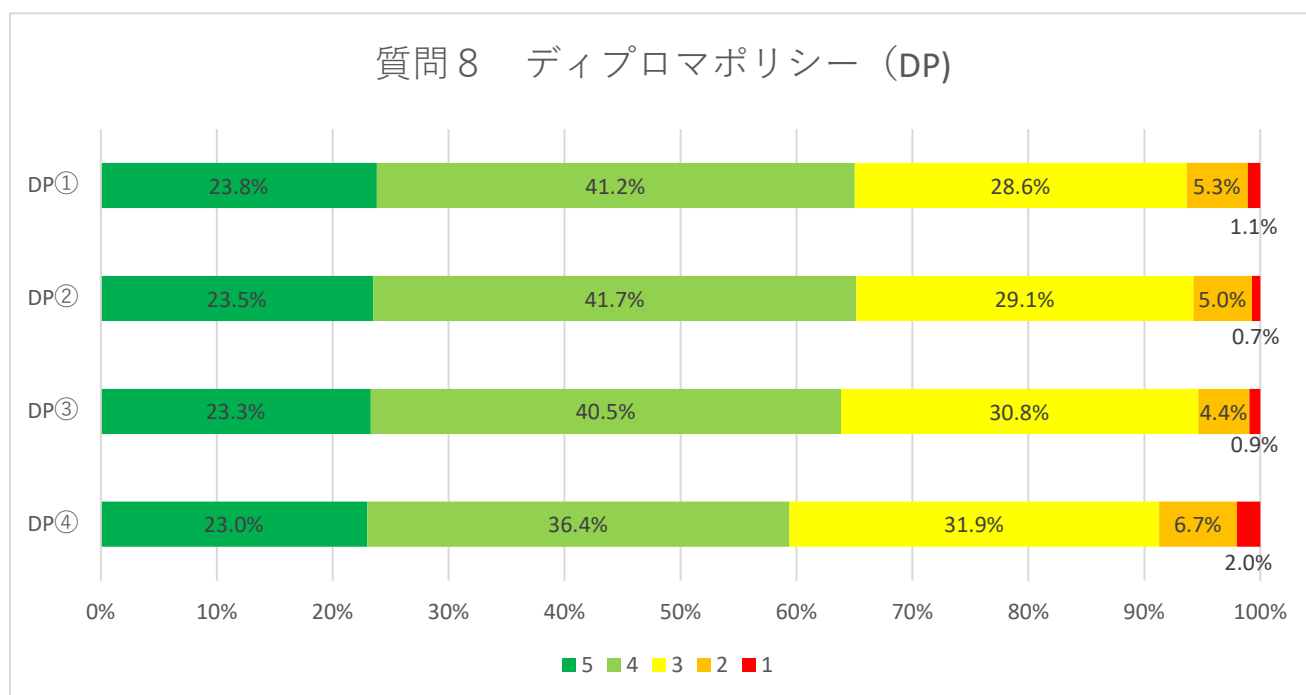
質問 7. 睡眠時間以外で自分がアルバイト・部活・趣味・休養等に自由に使うことができる時間は、1 週間（7 日間）でどれくらいですか。

1. 31 時間以上（毎日概ね 4.4 時間以上を自由に使うことができる）
2. 21～30 時間（毎日概ね 3～4.3 時間未満を自由に使うことができる）
3. 16～20 時間（毎日概ね 2.3～2.9 時間未満を自由に使うことができる）
4. 11～15 時間（毎日概ね 1.6～2.2 時間未満を自由に使うことができる）
5. 6～10 時間（毎日概ね 50 分～1.5 時間未満を自由に使うことができる）
6. 1～5 時間（毎日概ね 10 分～45 分未満を自由に使うことができる）
7. 0 時間（全く自由な時間が無い）



質問8. 大学が養成しようとする人材像（ディプロマ・ポリシー）は以下のとおりですが、現時点での自身の達成状況について5段階で自己評価してください。

- ① 幅広い教養、豊かな感性、人間理解、並びに国際的コミュニケーション能力を身につけるとともに、一人の人間として、他者と関わるための豊かな心を持ち、福祉社会の担い手と成り得るための体力を身につける。
- ② 豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探求する姿勢を身につける。
- ③ 医療福祉という総合的な視点を持ち、学際的に議論する力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療と福祉の両分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。
- ④ 4年間にわたる体系的な学修を通して、専門的な医療福祉人に必要な高いレベルの専門的学力や技術力、さらには、スペシャリストとしての指導力を身につける。

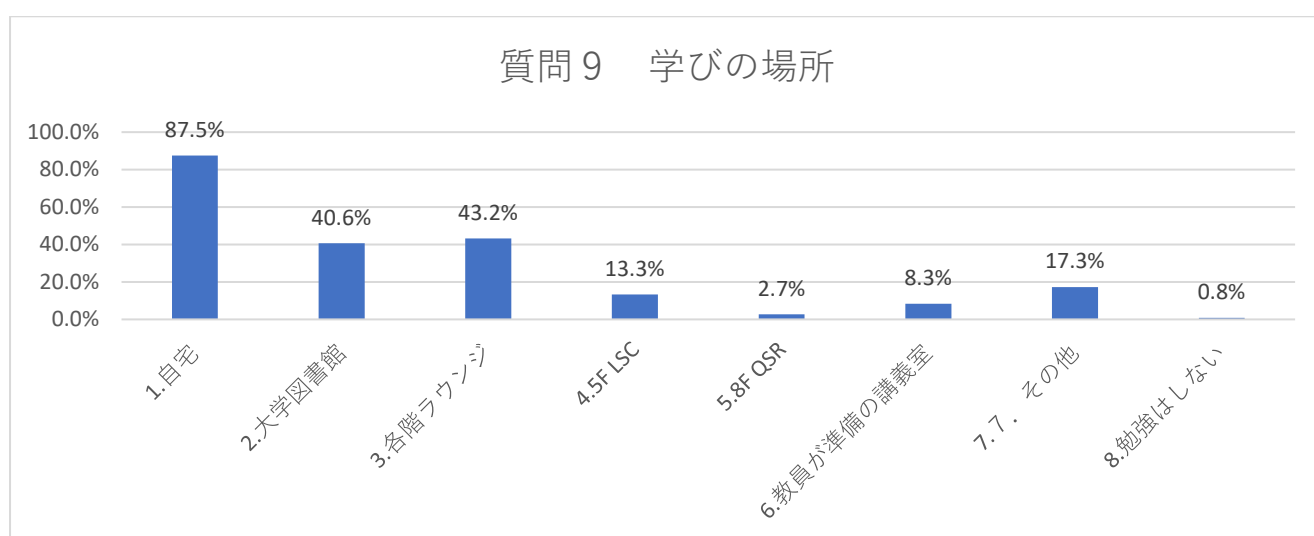


学年別の傾向（DP）

	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
DP①総計	23.8%	41.2%	28.6%	5.3%	1.1%
4	31.3%	40.0%	24.7%	2.9%	1.1%
3	20.8%	44.6%	27.6%	5.4%	1.6%
2	21.4%	41.6%	31.6%	4.3%	1.0%
1	22.1%	39.0%	30.6%	7.6%	0.7%
DP②総計	23.5%	41.7%	29.1%	5.0%	0.7%
4	30.0%	42.2%	23.6%	3.8%	0.4%
3	22.4%	41.9%	30.2%	4.4%	1.2%
2	20.4%	43.4%	30.6%	4.6%	1.0%
1	21.5%	40.0%	31.3%	6.9%	0.3%
DP③総計	23.3%	40.5%	30.8%	4.4%	0.9%
4	30.0%	41.7%	24.7%	2.9%	0.7%
3	20.2%	43.7%	31.2%	3.4%	1.6%
2	21.9%	40.1%	32.1%	4.8%	1.0%
1	21.6%	37.3%	34.3%	6.3%	0.5%
DP④総計	23.0%	36.4%	31.9%	6.7%	2.0%
4	29.8%	37.1%	28.3%	4.0%	0.9%
3	20.0%	40.7%	32.5%	5.0%	1.8%
2	22.4%	35.5%	33.9%	6.9%	1.3%
1	20.6%	32.9%	32.8%	10.1%	3.5%

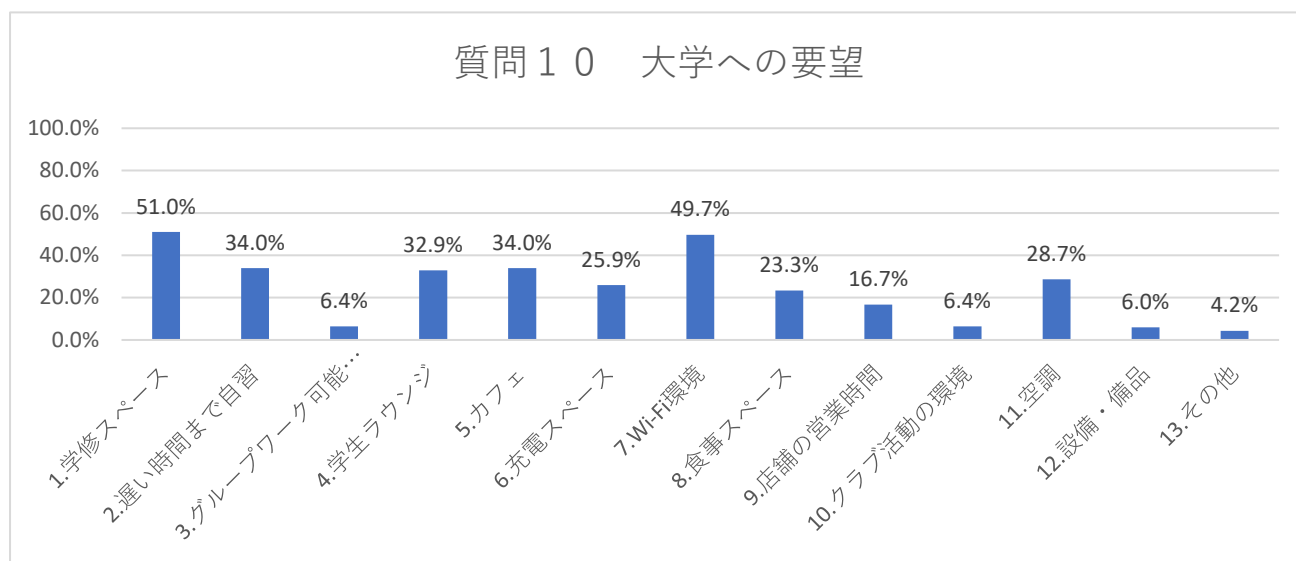
質問 9．授業時間以外での自己学修は、どこでしますか。該当する場所すべてを選択してください。

- 1．自宅
- 2．大学図書館
- 3．各階ラウンジ
- 4．5 F L S C （ラーニングサポートセンター）
- 5．8 F 資格対策演習室（8101～8103）
- 6．学科教員が準備した自習用の講義室・実習室
- 7．その他（友人宅・公共施設など）
- 8．授業時間以外の勉強はしていない



質問 10. 大学の学修環境もしくは学生生活環境整備への要望はありますか。あてはまるものすべてを選択してください。(2024 年度環境整備実績：各階ラウンジに勉強スペースを増設)

1. 静かに学修できるスペースの更なる拡充
2. 現在よりも遅い時間まで自習で 사용할 ことができるスペースの整備
3. グループワークを可能とする設備（プロジェクター、ホワイトボード、移動可能机等）を備えた自習スペースの設置
4. 学生ラウンジ等のフリースペースの拡充
5. コーヒーショップ等のカフェスペースの設置
6. 電子機器の充電スペースの更なる拡充
7. Wi-Fi 環境の充実（接続の簡易化、高速化等）
8. 食事スペースの拡充（食堂の増席、店舗の新設等）
9. 店舗の平日営業時間の延長
10. クラブ・サークル活動のための環境整備
11. 空調の改善
12. 設備・備品について
13. その他



質問 11. 質問 10 に「13. その他」と回答された方はその詳細をお書きください。

自由記述については別途保管する。



川崎医療福祉大学